

---

# 遊戯王GX 封竜の夢

遠鳴雷音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王GX 封竜の夢

### 【Nコード】

N8696Y

### 【作者名】

遠鳴雷音

### 【あらすじ】

注意 この作品は完全な自己満足作品です。当然オリカも存在しません。尚、主人公は非転生者でシンクロ召喚もエクシーズ召喚もありません。本作品は別の作品と平行して作っております。なので次回の投下間がまばらです。三沢がオリカを使います。三沢は空気がありません。三沢がロリコンではありません。万条目に変更があります。三沢が一つのデッキしか使いません。ミサワが漫画晩のデッキを使いません。三沢が…（以下略）

それでも大丈夫だと言う方は、ゆっくり見て逝ってね!!

TURN 1 封竜の鼓動(前書き)

最初に言っておく!!

俺は封竜OOOOOが好きだあああああ!!!

だからこの作品を作った、後悔はしていない。むしろ公開したい。

さあ、皆も一緒に、レッツ、イヤッフウウウウウウウウウウウウウウウウウウ!!!

## TURN 1 封竜の鼓動

ある晴れた日の朝、人気が溢れ賑わう街道を二人の少年が走っている。

二人共学ランを身に纏い一人は必死ながらもどこかにやけた表情をしており、もう一人の少年はその少年を見て不機嫌そうなその顔を更に曇らせている。

「うわあああああああ！！遅れる遅れる遅れるううううう！！」

「こんな大事な日に限って電車が遅れるなんて……だからもっと早く試験会場に行こうと言っただろう、十代！！」

「だってよお…電車の時間も余裕だったし、普通に間に合うと思うだろう？」

「その油断がこの結果を招いたんだよ！！お前はいつもいつも注意力がなさ過ぎる、さっきだって人にぶつかって迷惑をかけてしまっただろうが！！」

「あ、そっぴやさっきの人ホントいいカードをくれたよな。このカードを使うときが来るのが楽しみだぜ！！」

「まったくお前は……お、どうやらそろそろ着くみたいだぞ。」

二人が着いたのは山の上に聳える大きなドーム、海馬ランド。

今日ここではエリートデュエリストを育成する学園、デュエルアカデミアの実時試験が開かれている。

どうやらこの二人はデュエルアカデミアの実技試験を受けに来た受験生のようだ。

着いたと同時に、二人は受付の人に声をかける。二人は事前に遅れる連絡をしていたらしく、受付の人は二人を海馬ランドの中へ案内した。

「いや、一時はどうなるかと思ったぜ。あの人がくれたカードのおかげかな。」

「俺が事前に連絡をしたからだろうが……しかし、あの人は最近どこかで見た事あるような……」

「お、どうやらあつちでデュエルやってるみたいだぜ。見学だ見学……!」

「って、こら十代勝手に走りだすな!!」

十代と呼ばれた少年は、もうひとりの少年の言葉を聞かずにデュエルの場面が見える場所まで走り出す。

いつもの事なのか、少年の方はやれやれと言わんばかりにゆっくりとその場所まで歩き出した。

「俺は罫カード、破壊輪を発動。フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を破壊し、お互いにその攻撃力分のダメージを受ける。これで終わりです。」

少年が着いた時には、審査員が受験番号一番三沢大地の勝利と告げる声と共にデュエルは終了し、他のデュエル全てが終了した所であった。

十代の居場所を探していると、彼は背のちっこい眼鏡をかけた少年ともう話をしている。

まだ知り合ったばかりだというの顔見知りの友人と話をするような振る舞いを見せる彼に、少年は少し微笑みながら二人に話しかける。

「十代、もう友達が出来たのか？相変わらず人懐っこい性格だな。」

「お、夢。こいつは翔っていうんだ。翔、こいつは乾夢、俺の幼馴染で一緒にこの試験を受けに来たんだ。」

夢と呼ばれた少年は翔に軽く挨拶をし、翔もまた夢に挨拶を返す。そのまま翔は夢との会話を続ける。

「君も受験生なんだね。ところで君は何番なの？」

「ああ、俺は…」

「お、すっげえ強いなお前。あんなデツキ初めて見たぜ！！」

夢の言葉を遮って十代は先ほど戦っていた三沢大地という少年に話しかける。言葉を遮られた夢は苦苦しげな顔をして十代を睨むが、十代はまったく気にしていない。

「ありがとう、所で君は？俺が受験生で最後の筈だが…」

「俺は遊城十代、電車が遅れて今受け付けを済ませてきた所。」

「そうか、とすると後ろの彼も君と同じ送れて来た受験生と言う訳か。」

十代の言葉を聞き、納得する三沢。それと同時にアナウンスの音が響く。

【受験番号3番、乾夢君。受験番号110番、遊城十代君。試験開始です。直ちに決闘場にお越し下さい。】

「ん、ちょうど呼ばれたようだな。早くいこうぜ夢。」

「ああ。って、翔君、一体何を驚いているんだ？」

「だ、だだだだだって、夢さんって筆技試験3位だったんツスか！？十代君が110番なのに二人の差が酷いツスよ！！」

どうやら翔は夢の順位に驚いているらしい。二人は決闘場に向かうとしたが翔の驚きっぷりに笑いながら返す。

「この馬鹿十代は筆技が全然駄目だからな、そりゃ順位に差は出る。それにこういうのは個人差だからな、驚く必要もないだろう。」

「それに俺は実技だと強えからな！ここの受験生の中では一番強い自身があるぜ。」

得意げに笑う十代、一体どこからこの自身が沸いてくるのであろうか。

「む、それは聞き捨てならないな。君には悪いが一番はこの俺だ。」



「何を言ってる十代、一番は俺に決まっているだろう。」

「「ん？」」

三沢と夢、二人同時に十代に言い返す。が、どうやら二人も十代と同じで自分の実力に自信を持っているようだ。

「いやいや、夢が一番はありえねえだろう。俺に負け越ししてるんだから。」

「それはお前の引きが異常なだけだ。それでも勝ち星を挙げている俺の方が実力的には上だろう。」

「君達二人の実力は分からないが、伊達に主席を取ったわけではなくてね。実力的な意味でならまちがいなく一位はこの俺だろう。」

「……………十代君と夢君は早く決闘場に行きなよ。」

「遅いぞ、受験番号3番。ただでさえ遅刻しているんだ、これ以上の遅れは減点になるぞ。」

「すみません……………」

あれから急いで決闘場に来た夢であったが、当たり前のように試験官からのお小言を頂戴された。成績優秀の夢だったから小言ですんだものの、十代であったらどうなっていただろう。

「まあいい、君は優秀は生徒だから合格は確定だ。この試験はお遊びだと思っいていい、さあデュエルを始めようか。」

そういつと試験官は自身のデュエルディスクを展開した。それを見て夢は自分もデュエルディスクを展開させデュエルの準備を始める。そして夢は自分のデッキを見て周囲に聞き取れない声で囁く。

「お遊び、ねえ。んじゃま精々楽しむとするか。なあ、皆？」

夢の言葉が聞こえたのか、夢のデッキがかすかに光輝く。だが、それが見えた者は夢以外にはいなかったようだ。

「決闘っ!!!」

ターン1

先攻 夢 LP4000 手札5枚 フィールド、なし。 魔法・罨ゾーン、なし。

後攻 試験官 LP4000 手札5枚 フィールド、なし。 魔法・罨ゾーン、なし。 魔

「俺のターン、ドロー。行くぜ、俺は《封竜の巫女ウィングダ》を召

喚する！！」

《封竜の巫女ウィング》

効果モンスター

星4 / 風属性 / サイキック族 / 攻 1000 / 守 600

このカードの召喚時、相手の魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。

このカードが召喚・特殊召喚・反転召喚に成功した時、デッキから「封竜」と名の付くカードを一枚手札に加える事が出来る。

夢の出したカードに観衆が声を上げる。試験官も同じで驚愕の表情で夢を見だす。

「何っ！？君、そのカードは……」

試験官の言葉が予想できていたのであろう、夢は微笑を加えながら試験官の問いかけに答える。

「試験官ともある貴方が知らないはずはないでしょう、《封竜》シリーズを。」

《ライトロード》の所為で歴史の闇に消え去った不遇のシリーズの一つ。

相手の召喚時発動系を無効にする効果を併せ持つこのシリーズ、まさか使う人がいるとは思わなかったようですね。」

「ああ……今更こんな古いカード達を使うなんて思わなかったよ。他にも強いカードは一杯あるだろうに。」

「《封竜》は俺にとって最強の象徴ですから。では、《封竜の巫女

ウインダ』の効果を発動！！デッキから『幼き封竜プチリュウ』を手札に加える。

そしてカードを2枚伏せてターンエンド。」

ターン2

後攻 試験官 LP 4000 手札5枚 フィールド、なし。

魔法・罨ゾーン、なし。

先攻 夢 LP 4000 手札3枚 フィールド、『封竜の巫女ウインダ』。魔法・罨ゾーン、伏せ2枚

「私のターン、ドロ！。『封竜』は確かに落とし穴などが効かない厄介なシリーズだ。だが、その代わりに全体的に火力が小さいのが弱点だ！

私は手札より『ブラッド・ヴォルス』を召喚！！そして装備魔法『デーモンの斧』を手札に加え『ブラッド・ヴォルス』の攻撃力を1000上げる！！！！

『ブラッド・ヴォルス』で『封竜の巫女ウインダ』に攻撃iiiiii  
「！！！！」

『ブラッド・ヴォルス』 攻撃力2900 『封竜の巫女ウインダ』

』 攻撃力1000

「この瞬間、俺は罨カード『封竜の絆』を発動する！！攻撃を無効にし、手札から『幼き封竜プチリュウ』を墓地に送り二枚ドロする。」

カウンター罫

「封竜」と名の付くモンスターが攻撃対象に選ばれた時に発動する事が出来る。

その攻撃を無効化し、手札から「封竜」と名の付いたカードを一枚墓地に送り二枚ドロウする。

「くっ…俺はカードを2枚伏せターンエンド。(俺の伏せカードは《聖なるバリアミラーフォース》に《神の宣告》。どう転ぼうが私の勝ち揺るがない!!!)」

ターン3

先攻 夢 LP4000 手札4枚 フィールド、《封竜の巫女ウインダ》。魔法・罫ゾーン1枚

後攻 試験官 LP4000 手札2枚 フィールド、《ブラッド・ヴォルス》。魔法・罫ゾーン《デーモンの斧》。伏せ2枚。

「俺のターン、ドロウ。さて、お遊びの時間はここまで。この勝負、終わりにしましょう。」

「何っ!?君のモンスターは攻撃力10000の雑魚モンスター、それだけでどうやってこの勝負に勝つのだね!!!」

試験官の場には攻撃力2900の《ブラッド・ヴォルス》が立ち塞がっている。おまけに伏せカードも万全だ。慢心するのも無理はないだろう。

そんな気持ちを察したのか、夢は試験官の方を向き囁く。

「《封竜》。その力、覚えていませんか？」

その言葉を聞き、試験官は思い出したかのように目を見開く。

「《封竜》……ま、まさか!？」

「墓地に存在する《幼き封竜プチリュウ》の効果発動!! 《封竜の巫女ウインダ》がフィールド上に存在する時、手札・墓地から特殊召喚する事が出来る!!」

《幼き封竜プチリュウ》

効果モンスター

星2 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻 600 / 守 600

このカードの召喚時、相手の魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。

このカードは《封竜の巫女ウインダ》が自分フィールド上に存在する時に手札・墓地から特殊召喚する事が出来る。

このカードは風属性のモンスターのリリース対象になる際、2体分として扱う事が出来る。

「墓地から《幼き封竜プチリュウ》を特殊召喚!!そして《幼き封竜プチリュウ》のもう一つの効果発動、このカードは風属性のモンスターのリリース対象になる際、2体分として扱う事が出来る。

《幼き封竜プチリュウ》を生贄に捧げ、来い!! 《封竜ブロケード》  
《!!!!!!》

「封竜…ブロケードだと!？」

《封竜ブロケード》

効果モンスター

星8 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻 3000 / 守 2500

このカードは特殊召喚する事が出来ない。

このカードは「封竜」と名の付くモンスターを2体リリース事では通常召喚されない。

このカードの召喚時、相手の魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。

このカードの召喚時、手札を一枚捨て相手のフィールド上の魔法・罠ゾーンのカードを全て墓地に送る事が出来る。

この時、フィールド上の相手のカードの効果は無効化される。

このカードが表側攻撃表示で自分フィールド上に存在する限り、自分のターン中相手の全てのカードの発動を無効にし破壊する。

「《封竜ブロケード》の効果発動！！このカードの召喚時、手札を一枚捨て相手のフィールド上の魔法・罠ゾーンのカードを全て墓地に送る事が出来る。ヴァニッシングフィールド！！！」

《封竜ブロケード》が咆哮を上げ、相手の場のカードが全て破壊される。その光景はまさに絶望一色と言っていいたろう。

「そ、そんな……私の場の伏せカードが………」

「そして手札より通常魔法《地砕き》を発動。《ブラッド・ヴォルス》を破壊する。」

無情な夢の猛撃に試験官はなす術もない。そして場を見渡し気付く。

「と、いう事は……」

「ええ、これで終わりです。《封竜ブロケード》でダイレクトアタック。そして止め、《封竜の巫女ウィンダ》でダイレクトアタック  
！！」

試験官 LP4000 10000 0

「ぐ、ぐわあああああああ！！！！！！！！！！」

決着が着き、試験官のLP表示が0となりソリッドビジョンが展開を止め元に戻る。そして、夢はデュエルディスクを元に戻し試験官から背を向け、

「勝負あり、ありがとうございました。」

と言うと、決闘場から離れるように歩き出す。試験官はその姿を呆然とした表情で眺めているが彼は気付いていない。

夢の背後に緑色の髪をポニーに纏めた娘が夢に寄り添うように飛んでいる事に。

「ほえ、《封竜》デッキを使う人なんて始めて見たよ……十代君もクロノス先生に勝っちゃうし、二人共すごい強いなあ。」



それにしても、やっぱり思うのは……ウィンダちゃん、かあわいかったなあ……／＼／＼」

観客席では翔が先程の試合の事を思い返し一人にやけている。正直言ってかなりキモい。

他の人も十代と夢、二人のデュエルに驚きを隠せないのか周りの人達は皆騒ぎ出している。

その中で三沢は一人、誰もいない席に向かって話しかける。

「遊城十代に乾夢か……確かに自分が一番だと掲げる程の実力はあ  
るようだ。特に乾夢は俺といいライバルになりそうだな……アウス  
ト。」

『そうだね、でも私達と大地なら勝てるよきつと。』

「そうだな、俺達が負ける筈がない……乾夢、君の《封竜》は俺の  
《壊虎》が相手になるう。」

## T U R N 1 封竜の鼓動（後書き）

今日の最強カードは、《封竜ブロケード》

《封竜ブロケード》

効果モンスター

星8 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻 3000 / 守 2500

このカードは特殊召喚する事が出来ない。

このカードは「封竜」と名の付くモンスターを2体リリース事ですか通常召喚されない。

このカードの召喚時、相手の魔法・罫カードの発動を無効にし破壊する。

このカードの特殊召喚時、手札を一枚捨て相手のフィールド上の魔法・罫ゾーンのカードを全て墓地に送る事が出来る。

この時、フィールド上の相手のカードの効果は無効化される。

このカードが表側攻撃表示で自分フィールド上に存在する限り、自分のターン中相手の全てのカードの発動を無効にし破壊する。

まごう事なきチート、OCGならまだ対処はあるがLP4000だとマジでオワタ状態という……

前書きでも書いてある通り、この作品は封竜ブロケードを活躍させる為に書いた作品です。封竜ブロケードを知らない方は、私の別作品を見て下さい。

オリカ紹介 へ封竜 (前書き)

現在考えている《封竜》シリーズの一覧です。  
何かご意見がありましたらコメントして下さい。

## オリカ紹介 〈封竜〉

―モンスターカード―

《封竜の巫女ウイнда》

効果モンスター

星4 / 風属性 / サイキック族 / 攻 1000 / 守 600

このカードの召喚時、相手は魔法・罠カードを発動する事が出来ない。

このカードが召喚・特殊召喚・反転召喚に成功した時、デッキから「封竜」と名の付くカードを一枚手札に加える事が出来る。

《封竜の巫女姫ウイнда》

効果モンスター

星7 / 風属性 / サイキック族 / 攻 2300 / 守 1600

このカードの召喚時、相手の魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。

このカードは自分フィールド上の《封竜の巫女ウイнда》をリリースする事により手札から特殊召喚する事が出来る。

このカードが召喚・特殊召喚・反転召喚に成功した時、デッキから「封竜」と名の付く星4までのモンスターを二体までフィールド上に特殊召喚する事が出来る。

《封竜の開鳥ガルド》

効果モンスター

星2 / 風属性 / 鳥獣族 / 攻 500 / 守 500

このカードの召喚時、相手の魔法・罾カードの発動を無効にし破壊する。

このカードは《封竜の巫女ウインダ》が自分フィールド上に存在する時に手札・墓地から特殊召喚する事が出来る。

このカードが表側攻撃表示で自分フィールド上に存在する限り、相手は表示形式を変更する事ができない。

#### 《幼き封竜プチリュウ》

効果モンスター

星2 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻 600 / 守 600

このカードの召喚時、相手の魔法・罾カードの発動を無効にし破壊する。

このカードは《封竜の巫女ウインダ》が自分フィールド上に存在する時に手札・墓地から特殊召喚する事が出来る。

このカードは風属性のモンスターのリリース対象になる際、2体分として扱う事が出来る。

#### 《封竜の神官ムスト》

効果モンスター

星4 / 風属性 / サイキック族 / 攻1800 / 守 900

このカードの召喚時、相手の魔法・罾カードの発動を無効にし破壊する。

このカードが表側攻撃表示で自分フィールド上に存在する限り、相手は特殊召喚を行う度手札をランダムに一枚捨てなければならない。

この条件を満たせない場合、相手は特殊召喚を行う事が出来ない。

《封竜の雷獣サンボルト》

効果モンスター

星4 / 風属性 / 雷族 / 攻1500 / 守1200

このカードの召喚時、相手の魔法・罫カードの発動を無効にし破壊する。

このカードが表側攻撃表示で自分フィールド上に存在する限り、相手は手札・墓地のカードの効果を使用する事が出来ない。

《封竜の仙術師カーム》

効果モンスター

星4 / 風属性 / サイキック族 / 攻1700 / 守1100

このカードの召喚時、相手の魔法・罫カードの発動を無効にし破壊する。

このカードが表側攻撃表示で自分フィールド上に存在する限り、相手がドロウする度に自分のデッキからカードを一枚ドロウする事が出来る。

《封竜の戦鳥ファルコ》

効果モンスター

星2 / 風属性 / 鳥獣族 / 攻600 / 守1400

このカードの召喚時、相手の魔法・罫カードの発動を無効にし破壊する。

このカードが表側攻撃表示で自分フィールド上に存在する限り、自分の受けるダメージは0になる。

《封竜の賢者ウィングダール》

効果モンスター

星6 / 風属性 / サイキック族 / 攻2000 / 守1000

このカードの召喚時、相手の魔法・罫カードの発動を無効にし破壊する。

このカードが表側攻撃表示で自分フィールド上に存在する限り、相手モンスターの効果の発動を無効にする。

《封竜の霊鳥グリフ》

効果モンスター

星2 / 風属性 / 鳥獣族 / 攻 800 / 守 300

このカードの召喚時、相手の魔法・罫カードの発動を無効にし破壊する。

このカードが表側攻撃表示で自分フィールド上に存在する限り、相手は表側表示で存在する他の「封竜」と名の付くモンスターを攻撃対象に選択する事は出来ない。

《封竜ブロケード》

効果モンスター

星8 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻 3000 / 守 2500

このカードは特殊召喚する事が出来ない。

このカードは「封竜」と名の付くモンスターを2体リリース事なし

が通常召喚されない。

このカードの召喚時、相手の魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。

このカードの特殊召喚時、手札を一枚捨て相手のフィールド上の魔法・罠ゾーンのカードを全て墓地に送る事が出来る。

この時、フィールド上の相手のカードの効果は無効化される。

このカードが表側攻撃表示で自分フィールド上に存在する限り、自分のターン中相手の全てのカードの発動を無効にし破壊する。

#### ―魔法カード―

##### 《封竜の谷》

##### フィールド魔法

自分フィールド上に存在する「封竜」と名の付くモンスターの攻撃力を500ポイントアップする。

相手が魔法・罠カード使用して来た時、このカードを墓地に送る事でその効果を無効にし破壊する。

##### 《封竜の恵み》

##### 通常魔法

自分フィールド上に「封竜」と名の付くモンスターが存在する時に発動する事が出来る。

デッキからカードを2枚ドロウする。

##### 《封竜の開放》

##### 速攻魔法

このカード発動時に、自分フィールド上に表側表示で存在する全ての「封竜」と名の付くモンスターの攻撃力をこのターン中、倍にする。

エンドフェイズ時、自分のライフは半分になる。



## 《ヴァニッシングフィールド》

### 通常魔法

「封竜ブロケード」が自分フィールド上に存在する時、発動する事が出来る。

相手は次の自分のターンまで全てのカードの発動を無効化され破壊される。

このカードの効果を使用したターン中、「封竜ブロケード」は攻撃できない。

## 1 罠カード

### 《封竜の絆》

#### カウンター罠

「封竜」と名の付くモンスターが攻撃対象に選ばれた時に発動する事が出来る。

その攻撃を無効化し、手札から「封竜」と名の付いたカードを一枚墓地に送り二枚ドロウする。

### 《封竜結界》

#### 永続罠

自分のスタンバイフェイズ開始時、LPを1000払う。払わない場合はこのカードを破壊する。

自分フィールド上に存在する「封竜」と名の付くカード全ては相手のカードの効果を受けない。

## オリカ紹介 〈封竜〉 (後書き)

何故ブロケが風属性なの？普通闇か炎でしょ？と思う方もいらっしゃるかもしれませんが一応これには考えがあります。

最初は炎か闇で考えていたのですが、都合上闇と炎属性だと困るのでと言うのが理由ですが、ネタバレになるので内緒。

オリカの中にガスタシリーズの方々の名前がありますが、これにも理由があります。

《封竜》シリーズには霊使いのカードを入れようと考えており、元々ブロケードは闇か炎で考えていたのでダルクかヒータの亜種を入れる予定で進めていたのですが

、都合上闇と炎が無理になって断念。結論として風属性になりせいかく風属性にしたんだし、だったらウイン系でガスタ投入しようという結論に至り実行。後悔は何処かに捨て去った。

一応、《封竜》の設定としてはガスタの可能性の一部としており、ガスタと似て非なるものと考えております。よってシンク口召喚はしません。

いずれはガスタのカードを全投入する予定です。

TURN 2 錬金術の結晶、壊虎（前書き）

手札抹殺は制限じゃなくて禁止になった方がいいと思うんだ。後、ホント何故裁きの竜制限解除されたし。開闢の制限復活は歓喜だったが。

## TURN 2 錬金術の結晶、壊虎

「ようこそ、デュエルエリートの方。諸君は狭き門も実力で開いてやって来てくれました。未来のデュエルキングを目指して楽しく勉強してきてください…」

太平洋の孤島に設置されているデュエルアカデミア。今この教室では新たに学園に入る事になった新入生達へ学園の校長である鮫島が歓迎の言葉を送っている。

どこの学校も校長の話というものは長いようで、10分経つが鮫島の口からは言葉の止む気配はない。三沢と翔は鮫島の話を目撃しているが、十代は鮫島の話が始まると共に眠りについてしまう。そして夢は誰にも聞こえない音量で誰かと話しているようだ。

傍から見ると一人でブツブツと何をやっているのだから分からない。見る人から見ればただの不審者だろう。勿論夢が精神異常者で自分の妄想が作り出した存在と会話をする痛い男と言う訳ではない。

乾夢には幼い時からカードの精霊が見えるという能力を宿しており、彼は今その精霊と話しているのだ。精霊の名は《封竜の仙術師カーム》。夢のデッキに存在するカードである。

「長いな……まだ終わらんのか。」

『マスター、年長の話というのは長いものですよ。うちだってお父様のお小言は決まって長いものでしょう?』

夢の呟きにカームが微笑みながら答える。夢は面倒くさそうな表情

をしながら自分の頭に乗っている小さな竜、《幼き封竜プチリュウ》に話しかける。

「ホント年食うと何で話が長くなるのかねえ……なあ、プチリュウ？」

『プチィ〜』

プチリュウは頭の上から元気よく答える。夢はプチリュウの言葉が分かるのか、とても満足そうだ。

「お、そうか。お前もそう思うよなあ。って、こらガルド、くすぐったいって。サンボルトも後で遊んであげるから大人しくしてくれよ？」

『ガル〜 ガルガル!〜!』

『ボルト?ボルト〜』

プチリュウだけ夢と話しているのに不満なご様子で、傍に居た《封竜の開鳥ガルド》と《封竜の雷獣サンボルト》は夢に甘えるように寄り添ってくる。

夢は少し困った声で二匹を宥めるが、その顔からは困った様子など微塵も感じられない。そんな夢をカームは隣で面白そうに眺めている。

夢が精霊達と戯れている間にどうやら鮫島の話は終わったようで、殆どの生徒がこれから3年間お世話になる自分の寮へと荷物を置きに向かっていく。

生徒が少なくなっていく中、鮫島の話が終わった事に気づいた夢は眠り続けている十代を叩き起こし近くに居た翔と共に教室を後にした。

ちなみに十代を叩いた時の音はそれはもう教室中に響くいい音だった。

「痛つてえ……………夢、お前人の頭を思いつきり叩くなよ。たんこぶ出来たじゃねえか。」

「うるさい、鮫島校長の話を碌に聞かず寝ていたお前が悪い。」

「（夢君も校長の話を聞かずに一人でぶつぶつと何か言ってた癖に……………）」

十代は頭を抱えながら夢を睨むが、夢は自業自得だと言わんばかりに十代を睨み返す。その後ろで翔は冷やかな目で夢を見ている。

未だに不満が残っている十代をスルーし、夢は分かれ道まで歩くと2人とは別の道を選び分かれようとする。それも見た翔は疑問に思

いながら夢に問いかける。

「あれ、夢君。なんでそっちに行くんツスカ？」

「そりゃ、俺は「ライイエロー」でお前等が「オシリスレッド」だからだろうが。」

「あれ？夢、何で俺達が「オシリスレッド」だって分かるんだ？」

「……………制服見りゃ分かる。制服の色によって「オシリスレッド」か「ライイエロー」、「オベリスクブルー」の生徒か分かるようにしているんだよ。」

2人の問いかけに呆れながらも、夢は律儀に説明を加えて答える。夢の説明を聞いて二人はほおほおと頷いて納得したようだ。

夢が2人と分かれようとする、3人の目の前に三沢大地が現れる。彼の着ている制服の色は夢と同じ「黄色」だ。

「よお、二番。その制服を見るにお前は「ライイエロー」か。」

「ん？ああ、そうだよ。しかし……………君は「オシリスレッド」か。君の実力なら「ライイエロー」でもおかしくない筈だが……………」

「む？なんか引つかかる言い方だな……………」

むっと頬を膨らませる十代。三沢は笑いながら、十代にまあ気にしない事だと返す。

「そうだ乾君、君は俺と同じ「ライイエロー」のようだな。良かった」

たら一緒に寮まで行かないか？」

夢は三沢に別に構わないと答え、十代の方に顔を向ける。

「じゃ、十代、くれぐれもレッド寮でおかしな事はするんじゃないぞ？後、洗濯物は溜め込まずにな？それからデッキの調整に夢中になり過ぎて睡眠時間をあまり削るなよ？それから……」

「だああああ！！分かった分かった！！ホント夢は無駄に世話を焼くよな…お前は俺の母ちゃんかよ。」

夢の小言に十代はまたかよ、と言いたげな表情で夢を見る。二人の中では何度も繰り返された会話なのだろう、夢は微笑を加えながら十代に投げかける。

「ま、そう小言を言われなくなればちゃんとした生活をしてから言え。んじゃな………お前等、十代の事頼んだぞ。」

そう言つと夢は十代達から背を向け三沢と共に自分の住む事になる寮へと歩き出す。十代の背後では彼の精霊達が任せておけと胸を張って夢を見送っている。

その姿を見た十代は「お前等もかよ……」と、少しショックを感じていた。



「そういえば、君は『封竜』と言うなつかしいシリーズを使っていたね。昔から使っているのかい？」

「ああ、俺が3才の時の誕生日プレゼントがこのデッキでね。それ以来ずっと愛用している。」

寮までの道中、2人は互いに自分のデッキなどを話しながら会話を楽しんでいる。思った以上に2人は気が合うらしく、互いに笑みを絶やさない。

夢の話聞いた三沢は、一人合点したのか納得した顔で夢に答える。

「成る程ね……君と精霊達は十年來の付き合いか。道理でそんなに仲がいい訳だよ。」

三沢の言葉に夢は一瞬立ち止まり、三沢を睨みつける。そんな夢を見て三沢は笑いながら右手を鳴すると、三沢の隣に眼鏡をかけた茶髪の少女が現れた。

「ご覧の通り、俺もカードの精霊がいる身でね。紹介しよう、彼女はアウスト。俺の大切な相棒だ。」

『宜しく、乾さん。良かったら試験の時に君の傍にいたお友達にも会いたいな。』

夢はこの事態に少し頭がフリーズしていた。今まで自分の他にカー

ドの精霊が見える人間なんて古くからの友人である遊城十代しか知らず、突然現れた三沢の精霊に驚きを隠せていない。自分達のほかにもカードの精霊が見える人がいた、夢はこの事実に笑みを浮かべ自分の精霊を呼び出す。

「まさか三沢も俺と同じカードの精霊が見える人間だとはな……つと、こいつはウィンダ、俺の相棒だ。」

夢の隣に現れたのは鮫島の話の時にいたカームを似た容姿の娘で、カームと比べまだ幼さが残るものの年相応の可愛らしさを持つ少女。《封竜の巫女ウィンダ》だ。

ウィンダはアウストの方に向かい、彼女の手の取り満面の笑顔で喋りかける。

『試験の時にいたのは私だよ、宜しくねアウストちゃん！』

『こちらこそ宜しく、同じ精霊同士仲良くしようね。』

『うん！—！』

どうやら精霊同士の方もすぐに仲良くなつたみたいで、2人はその光景をみて苦笑する。そして互いの手を握り握手をした。

「改めて、これから三年間宜しくな乾夢君。」

「こちらこそよろしく頼む、三沢大地。」

「まさか部屋も隣とはな……気持ち悪い表現だが、君と俺は運命的な何かで繋がっているみたいだな。」

「ホントだな……まあこちらとしては助かるがな。」

寮に着いた二人は自分の部屋を確認する為に寮長である樺山に聞いた所、樺山から2人の部屋は隣同士であると聞かされた。

ここまで都合のいい展開に2人は苦笑いしながら自分の部屋へと向かっている。2人の部屋は2階の階段側の角部屋付近で、辿り着くのにそこまで時間を消費しなかった。

「つと、ここだな。それじゃあな乾。」

「ああ、そういえば寮の歓迎会は一時間後だったな。折角だから、荷物を置いたらデュエルをしないか？」

「それはいいな、俺も君と決闘がしたいと思っていたんだ。場所は君の部屋でいいよな、荷物を置いたらすぐ行く。」

そういつと三沢は自分の部屋へと入る、と同時にまたドアを開け部屋から出た。

「お待たせ、それじゃあ決闘を始めようか。」

ドアを開けてすぐに鞆を置いたのだろうか、三沢のあまりにも早い行動に夢は呆れながらも答える。

「いや、お前……早くね？」

「君と早く決闘がしたくてね、つい。」

「……入れ。」

三沢は少し照れくさい表情で返す。男の照れくさい表情など別に見たくもないので、夢は何事もなかったようにドアを開ける。三沢は夢の後に続き、おじやましますと言いながら中に入った。

「別に歓迎会までの時間潰しだから決闘盤は使わなくていいよな？」

「ああ構わない。正直、立ちながらより座りながらの方が楽で助かる。」

2人はそれぞれの決闘盤を外し、プレイマットを下に置き決闘の準備を始める。そういえばこの世界ではプレイマットは売れるのだから

うか？

「んじゃ先攻はどうする？俺が貰ってもいい？」

「いいぞ、それじゃあ俺が後攻だな。そろそろ始めようか。」

お互いに攻守を決め、決闘の準備が整った。2人はカードを5枚引き、決闘のを告げるお決まりの台詞を言い放つ。

「「決闘！！」」

ターン1

先攻 夢 LP4000 手札5枚 フィールド、なし。 魔法・

罨ゾーン、なし。

後攻 三沢 LP4000 手札5枚 フィールド、なし。 魔法・

罨ゾーン、なし。

「俺のターン、ドロー。《封竜の仙術師カーム》を攻撃表示で召喚し、カードを2枚伏せてターンエンド。」

ターン2

後攻 三沢 LP4000 手札5枚 フィールド、なし。 魔法・

罨ゾーン、なし。

先攻 夢 LP4000 手札3枚 フィールド、《封竜の仙術師

カーム》。 魔法・罨ゾーン、伏せ2枚。

「俺のターン、ドロー。」

「その瞬間、フィールドに存在する《封竜の仙術師カーム》の効果発動！このカードが表側攻撃表示で存在する限り、お前がドローするたびに俺も一枚ドローする事が出来る。」

《封竜の仙術師カーム》

効果モンスター

星4 / 風属性 / サイキック族 / 攻1700 / 守1100

このカードの召喚時、相手の魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。

このカードが表側攻撃表示で自分フィールド上に存在する限り、相手がドローする度に自分のデッキからカードを一枚ドローする事が出来る。

「成る程、ハンドアドバンテージを稼げるカードか……そしつは厄介だからここで退場して貰うとしよう。俺は手札から魔法カード、《地砕き》を発動する。」

「その瞬間、俺は罠カード《強制脱出装置》を発動する。俺はフィールドの《封竜の仙術師カーム》を手札に戻すぞ。」

《地砕き》によって破壊されそうになったカームを、夢は《強制脱出装置》によって手札に戻しそれを回避する。だが三沢はそれを読んでいたのか顔は笑ったままだ。

「甘いな、俺は更に手札から魔法カード《手札抹殺》を発動する！お互いに手札を全て捨ててその枚数分カードをドロー。フツ、これでやつかいなカームは墓地行きだな。」

「くっ……」

《手札抹殺》によってお互いの手札が墓地に送られる、夢が墓地に送ったカードは殆どが魔法カードで《手札抹殺》によるダメージはかなり大きい。

一方三沢の捨てた手札は全てモンスターカードで、墓地肥やしも兼ねている。汚い、さすが《手札抹殺》汚い。《手札抹殺》は禁止になればいいと思うのは私だけなのだろうか。

お互いに捨てた枚数分カードをドローした後、三沢は自分の思い通りの展開にやけ顔を止められないでいる。そんな三沢を見て、夢は警戒を緩めない。

「さて、ではそろそろ俺のデッキの紹介と行こうか。俺のデッキのカード達は、賢者の石を追い求めて日々研究を続けている錬金術師達の里の住民だ。そして、錬金術師達は研究の過程で全てを破壊し尽す最強の虎を作り出す……それが《壊虎》！！乾君、君の《封竜》と同じ《ライトロード》によって人々に忘れ去られた不遇のカード。俺がこれから出すのは《壊虎》の新しき術師にして俺の相棒！《壊虎の術師アウスト》を表側守備表示で召喚！！」

《壊虎の術師アウスト》

効果モンスター

星4 / 土属性 / 魔法使い族 / 攻 500 / 守 1500

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードが召喚・特殊召喚・反転召喚に成功した時、手札を1枚捨て自分の墓地からレベル4以下の「壊虎」と名の付くモンスターを一枚選び特殊召喚する事が出来る。

このカードが表側表示で場に存在する時、表側表示で存在する他の「壊虎」と名の付くモンスターの攻撃力・守備力を100アップする。

「《壊虎の術師アウスト》の効果発動!!手札を一枚捨てて墓地から《壊虎の人工巨人ドライ》を特殊召喚する。現れよ、ドライ!!」

《壊虎の人工巨人ドライ》

効果モンスター

星4 / 土属性 / 岩石族 / 攻 800 / 守 1200

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードが墓地から特殊召喚された時、相手のフィールド上の魔法・罠カードを一枚選び破壊する事が出来る。

「《壊虎の人工巨人ドライ》の効果発動!このカードが墓地から特殊召喚された時、相手のフィールド上の魔法・罠カードを一枚選び破壊する。君のその伏せカードを破壊だ!!」

「ちっ…《魔法の筒》が破壊されたか……」



夢のフィールドは丸裸になり、これで三沢は相手の伏せカードを気にせずに直接攻撃を仕掛ける事が出来る。だが、三沢はまだバトルフェイズに移行する気配を見せない。

「そして、手札より《壊虎の見習い錬金術師ノビ》の効果を発動する。このカードは手札から「融合」として扱う事が出来る。俺は手札の《壊虎の人工巨人アイン》とフィールドの《壊虎の人工巨人ドライ》を融合！！錬金術が新たな力を作りだす、現れよ《壊虎の合体巨人ドライアイン》！！」

《壊虎の見習い錬金術師ノビ》

効果モンスター

星1 / 土属性 / 魔法使い族 / 攻 100 / 守 100

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードは手札から「融合」として扱う事が出来る。

このカードの受ける戦闘ダメージは相手にも与える事が出来る。

《壊虎の合体巨人ドライアイン》

融合モンスター

星6 / 土属性 / 岩石族 / 攻 2000 / 守 700

《壊虎の人工巨人アイン》 + 《壊虎の人工巨人ドライ》

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードが特殊召喚に成功した時、自分と相手のモンスターを一体選り破壊する。

このカードが破壊された時、互いのLPに500のダメージを与え

る。

「いきなり攻撃力2000の融合モンスターを出すだと……！？まるで十代だな、お前は。」

「そういえば、遊城十代も融合モンスターを使用するデッキだったね。だが、融合においては錬金術を扱う《壊虎》の方が上だ！！バトルフェイズ、ドライアインで直接攻撃！！アウストの効果で攻撃力は100ポイントアップしている！！」

《壊虎の合体巨人ドライアイン》 攻撃力2000 2100 守備力700 800

夢 LP4000 1900

「くっ……」

「俺はバトルフェイズを終了しターンエンドだ。」

ターン3

先攻 夢 LP1900 手札5枚 フィールド、なし。 魔法・罨ゾーン、なし。

後攻 三沢 LP4000 手札0枚 フィールド、《壊虎の合体巨人ドライアイン》（攻撃表示）、《壊虎の術師アウスト》（守備表示） 魔法・罨ゾーン、なし。

「俺のターン、ドロー。(このターンで三沢の場のカードを越える攻撃力のモンスターは出せない……幸い相手の手札は0、このターンは守りに入るか。)モンスターをセット、カードを一枚伏せてターンエンド。」

ターン4

後攻 三沢 LP4000 手札0枚 フィールド、《壊虎の合体巨人ドライアイン》(攻撃表示)、《壊虎の術師アウスト》(守備表示) 魔法・罠ゾーン、なし。  
先攻 夢 LP1900 手札4枚 フィールド、伏せモンスター一枚。魔法・罠ゾーン、伏せ一枚。

「俺のターン、ドロー。手札から《サイクロン》を発動、その伏せカードを破壊するよ。」

「ならそれにチェインして罠カード発動、《威嚇する咆哮》!!!このターンお前は攻撃を行う事が出来ない!!!」

三沢は《サイクロン》を引き当てそれを発動するも、夢の伏せカードは《威嚇する咆哮》。発動されて《サイクロン》は不発に終わる。

「くっ……ならこのままターンエンドだ。(不味いな、このまま押し切るつもりだったがこれでは逆転の可能性が出てきてしまう。次のターンで何もなければいいのだが……)」

ターン5

先攻 夢 LP1900 手札4枚 フィールド、伏せカード一枚。  
魔法・畏ゾーン、なし。

後攻 三沢 LP4000 手札0枚 フィールド、《壊虎の合体  
巨人ドライアイン》（攻撃表示）、《壊虎の術師アウスト》（守備  
表示） 魔法・畏ゾーン、なし。

「俺のターン、ドロー。リバーズカードは《封竜の戦鳥ファルコ》  
だ。このカードは別にリバーズ効果を持っていないので、一応何も  
起こらない。だが、このカードを生贄に捧げ《封竜の賢者ウィンダ  
ール》を召喚する！これでお前の場のモンスターカードの効果はな  
くなった！！」

《封竜の賢者ウィンダール》  
効果モンスター  
星6/風属性/サイキック族/攻2000/守1000

このカードの召喚時、相手の魔法・畏カードの発動を無効にし破壊  
する。

このカードが表側攻撃表示で自分フィールド上に存在する限り、相  
手モンスターの効果の発動を無効にする。

《壊虎の合体巨人ドライアイン》 攻撃力2100 2000 守  
備力800 700

「くっ…しかし、ドライアインの攻撃力はそちらのウィンダールと  
同じ2000。相打ちでもする気がい？」

三沢の苦し紛れの挑発に、夢は不適に笑い返す。

「まさか、俺は手札より装備魔法《団結の力》を発動する！！これでウィンダールの攻撃力は2800、お前のドライアインを超えた！！」

「なんだとっ!?!」

《封竜の賢者ウィンダール》 攻撃力 2000 2800

バトルフェイズ、ウィンダールでドライアインを攻撃！！ウィンダールの効果でドライアインの戦闘破壊態勢は無効化される！！」

《封竜の賢者ウィンダール》 攻撃力2800 《壊虎の合体巨人  
ドライアイン》 攻撃力2000

三沢 LP4000 3200

「くっ……ドライアインが破壊されてしまったか……」

「俺はカードを1枚伏せターンエンドだ。（これで状況は俺に傾いた…だが、三沢が十代と同じタイプだとしたら俺は……）」

夢は自分が有利な状況にも関わらず底知れぬ不安を抱いている。

夢には彼の友人である遊城十代の持つ人智を越えた特性「チートドロ」によるトラウマがあり、今のような状況にも十代はドロで打破し夢を倒してきた。

一度だけならまだいいだろう、だがその回数が10、100と馬鹿げた回数だとしたら？普通はありえない、だが遊城十代はそれを可能にする天性の決闘者なのだ。

故に夢は、このような状況になると急に不安になってしまふ。三沢も十代と同じように一枚のカードでこの状況を打破してしまうのではと……図らずともその予想は当たってしまうのだが。

ターン6

後攻 三沢 LP3200 手札0枚 フィールド、《壊虎の術師アウスト》（守備表示） 魔法・罨ゾーン、なし。

先攻 夢 LP1900 手札3枚 フィールド、《封竜の賢者ウインダール》（攻撃表示） 魔法・罨ゾーン、《団結の力》、伏せ一枚。

「俺のターン、ドロ……俺は《強欲な壺》を発動！！デッキからカードを2枚ドロする！！」

「こ、ここで強欲だっ！？や、止めるおおおおお！！！！！！！！」

《強欲な壺》

通常魔法（禁止カード）  
自分のデッキからカードを2枚ドロウする。

夢にとってトラウマの一つともいえるカード、《強欲な壺》。このカードによつて夢は数えるのも億劫になる程十代に負け続けたのだ。ちなみに《E・HEROバブルマン》も夢のトラウマカードの一つらしい。

三沢はデッキからカードを2枚引くと、さつきまで暗くなっていた顔が一気に明るくなる。この状況を打破するカードを引いたのだと、夢はそう直感した。そしてその感は実現されてしまう……

「《壊虎の術師アウスト》が自分フィールド上にいる時、俺は手札から《壊虎の珍獣デモ・ビバ》を特殊召喚する事が出来る！手札よ、《壊虎の珍獣デモ・ビバ》を特殊召喚！！」

《壊虎の珍獣デモ・ビバ》

効果モンスター

星2 / 土属性 / 魔法使い族 / 攻 600 / 守 600

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードは《壊虎の術師アウスト》が自分フィールド上に存在する時に手札・墓地から特殊召喚する事が出来る。

このカードは土属性のモンスターのリリース対象になる際、2体分として扱う事が出来る。

「《壊虎の珍獣デモ・ビバ》は、土属性のモンスターを生け贄召喚

する際2体分として扱う事が出来る。

俺は《壊虎の珍獣デモ・ビバ》を生け贄に、《壊虎エラルド・ブレット》を召喚！来い、錬金術の生み出した偉大なる虎よ！！」

《壊虎エラルド・ブレット》

効果モンスター

星8 / 土属性 / 岩石族 / 攻 3000 / 守 2500

このカードは特殊召喚する事が出来ない。

このカードは「壊虎」と名の付くモンスターを2体リリース事ではか通常召喚されない。

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードが召喚に成功した時、相手フィールド上のモンスターを全て破壊する。

このカードが破壊された時、互いのLPに2000のダメージを与える。

「こ、攻撃力3000！？俺のウィンドールを超えただと……」

「バトルフェイズ、エラルト・ブラットでウィンドールを攻撃！エリクシール・ブレス！！」

《壊虎エラルド・ブレット》 攻撃力3000 《封竜の賢者ウイ

ンドール》 攻撃力2800



夢 LP1900 1700

「ウインダール!?」

「ウインダールがいなくなった事で俺のモンスターは再び戦闘破壊耐性を得、更に攻撃力も100アップする。これでターンエンドだ。」

┌

《壊虎エラルド・ブレット》	攻撃力3000	3100	守備力
2500	2600		

「（良かった、十代だったらこのターンで終わっていた……）」

十代はいつもそのターンのドロイーでスカイプレイヤーとフレイムウイングマンの鬼畜コンボを叩き込んできたり、スカイプレイヤーとエッジマンの攻撃力3600コンボでボコボコにされたり、スカイクレイパーと（以下略）といった行動を取り、そこでいつもLPを0にされるのだ。自分のターンが回るだけでも彼にとってはめっけもんだろう。

「（自分のターンである《壊虎》は倒す事が出来る。だが、まだあいつのLPを0には出来ない…あのカードが来ればいいんだが……）」

┌

ターン7

先攻 夢 LP1700 手札3枚 フィールド、なし。 魔法・

罨ゾーン、伏せ一枚。

後攻 三沢 LP3200 手札0枚 フィールド、《壊虎エラルド・ブレット》（攻撃表示）、《壊虎の術師アウスト》（守備表示） 魔法・罨ゾーン、なし。

「俺のターン、ドロー！！っと、ようやく来たか。悪いな三沢、このターンで勝負は終わりだ。リバースカードオープン、《二重召喚》！！これで俺はこのターン2回通常召喚を行える。俺は手札から《封竜の巫女ウインダ》を召喚！！効果でデッキから《封竜ブロード》を手札に加える！！そして、手札にある《幼き封竜プチリュウ》の効果発動！ウインダが場に存在する時特殊召喚する事が出来る。さらにプチリュウは風属性の生け贄召喚する際2体分として扱ふ事が出来る。俺は《幼き封竜プチリュウ》を生け贄に、《封竜ブロード》を召喚！！効果により、俺のターン中お前のモンスターの効果は全て無効だ！！」

《壊虎エラルド・ブレット》	攻撃力3100	3000	守備力
2600	2500		

「くっ、これで俺のモンスターの効果は再び失われたか…だが、君のブロードの攻撃力は俺のエラルド・ブラットと同じ！君のウインダの攻撃力では俺のアウストを倒す事は出来ないし、まだ俺にもチャンスはある！！」

三沢の言葉に、夢は不適に返す。

「三沢…ウインダが場にいる時特殊召喚出来る奴はまだいるんだよ

！手札の《封竜の開鳥ガルド》の効果発動！！ウィンダが場にいる時に特殊召喚する事が出来る。来い、ガルド！」

《封竜の開鳥ガルド》

効果モンスター

星2 / 風属性 / 鳥獣族 / 攻 500 / 守 500

このカードの召喚時、相手の魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。

このカードは《封竜の巫女ウィンダ》が自分フィールド上に存在する時に手札・墓地から特殊召喚する事が出来る。

このカードが表側攻撃表示で自分フィールド上に存在する限り、相手は表示形式を変更する事ができない。

「だが、そいつも攻撃力はたったの500。俺を削りきるには至らないね！！」

「甘い！俺は手札から速攻魔法、《封竜の開放》を発動する！！俺の場のモンスター達の攻撃力はこのターン倍になる！！」

《封竜の開放》

速攻魔法

このカード発動時に、自分フィールド上に表側表示で存在する全ての「封竜」と名の付くモンスターの攻撃力をこのターン中、倍にする。

エンドフェイズ時、自分のライフは半分になる。

《封竜ブロケード》 攻撃力3000 6000  
《封竜の巫女ウィンダ》 攻撃力1000 2000  
《封竜の開鳥ガルド》 攻撃力500 1000

「な、なんだと……攻撃力6000!？」

「バトルフェイズ! ブロケードでエラルト・ブラットに攻撃! 破壊しつくせ、ヴァニッシング・フィールド!」

《封竜ブロケード》 攻撃力6000 《壊虎エラルド・ブレット》  
《》 攻撃力3000

三沢 LP 3200 200

「そしてウィンダでアウストに攻撃!」

《封竜の巫女ウィンダ》 攻撃力2000 《壊虎の術師アウスト》  
《》 守備力1500

「最後だ!! ガルドで直接攻撃!!!」

《封竜の開鳥ガルド》 攻撃力1000

「くっ……俺の負けか。」

自身の敗北に頭を項垂れる三沢。チートドロとまではいかずとも、あの状況を立ち直したのだ。そこからの逆転には辛い物があるだろう。

「危なかった……さすがは学年主席、一歩間違えれば負けるところだったぜ。」

「はは、出来る所なら勝ちに行きたかったんだがね。見事に逆転されてしまったよ。」

勝負が終わり、互いを称え合う2人。その後2人は先程の勝負の間想戦を行い、見事に寮の歓迎会に遅れてしまう事になる。

その姿を背後で見ている精霊2人は、『似た者同士だね、あの2人……』と呟いていた。

## TURN 2 錬金術の結晶、壊虎（後書き）

今日の最強カード、《壊虎エラルド・ブレット》  
効果モンスター

星8 / 土属性 / 岩石族 / 攻 3000 / 守 2500

このカードは特殊召喚する事が出来ない。

このカードは「壊虎」と名の付くモンスターを2体リリース事では通常召喚されない。

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードが召喚に成功した時、相手フィールド上のモンスターを全て破壊する。

このカードが破壊された時、互いのLPに2000のダメージを与える。

今回は発動出来なかったが、召喚時に相手のモンスター全破壊能力を持っており、戦津破壊されない攻撃力3000!!おまけにもし破壊されたとしても互いのライフに2000のダメージを与える。LP4000環境のアニメ晩だとマジ鬼畜です。但し、自分もその効果でやられてしまう危険性ありますが……

オリカ紹介 へ壊虎 (前書き)

三沢が使う『壊虎』の紹介。個人的にはリアルで使いたいカード達です。

## オリカ紹介 〈壊虎〉

1 モンスターカード1

《壊虎の術師アウスト》

効果モンスター

星4 / 土属性 / 魔法使い族 / 攻 500 / 守 1500

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードが召喚・特殊召喚・反転召喚に成功した時、手札を1枚捨て自分の墓地からレベル4以下の「壊虎」と名の付くモンスタ1枚を選び特殊召喚する事が出来る。

このカードが表側表示で場に存在する時、表側表示で存在する他の「壊虎」と名の付くモンスタ1の攻撃力・守備力を1000アップする。

《壊虎の術師アウスト》

効果モンスター

星7 / 土属性 / 魔法使い族 / 攻 1000 / 守 2700

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードは自分フィールド上の《壊虎の術師アウスト》をリリースする事により手札から特殊召喚する事が出来る。

このカードが召喚・特殊召喚・反転召喚に成功した時、手札を2枚まで捨て自分の墓地からレベル4以下の「壊虎」と名の付くモンスタ1を捨てた枚数分選び特殊召喚する事が出来る。

このカードが表側表示で場に存在する時、表側表示で存在する他の「壊虎」と名の付くモンスタ1の攻撃力・守備力を300アップする。



《壊虎の珍獣デモ・ビバ》

効果モンスター

星2 / 土属性 / 魔法使い族 / 攻 600 / 守 600

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードは《壊虎の術師アウスト》が自分フィールド上に存在する時に手札・墓地から特殊召喚する事が出来る。

このカードは土属性のモンスターのリリース対象になる際、2体分として扱う事が出来る。

《壊虎の錬金術師アウスエル》

効果モンスター

星4 / 土属性 / 魔法使い族 / 攻 1900 / 守 1500

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードは手札から「融合」として扱う事が出来、更にこのカードを融合素材モンスター1体の代わりとして数えることが出来る。その際、他の融合素材モンスターは地属性でなければならない。

《壊虎の商人ドラ》

効果モンスター

星2 / 土属性 / 機械族 / 攻 900 / 守 500

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードが墓地から特殊召喚された時、自分のデッキからカードを2枚する。

《壊虎の見習い錬金術師ノビ》

効果モンスター

星1 / 土属性 / 魔法使い族 / 攻 100 / 守 100

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードは手札から「融合」として扱う事が出来る。

このカードの受ける戦闘ダメージは相手にも与える事が出来る。

《壊虎の人工巨人アイン》

効果モンスター

星4 / 土属性 / 岩石族 / 攻 1400 / 守 1600

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードが墓地から特殊召喚された時、相手の手札をランダムに一枚選び破壊する事が出来る。

《壊虎の人工巨人ツヴァイ》

効果モンスター

星4 / 土属性 / 岩石族 / 攻 800 / 守 1200

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードが墓地から特殊召喚された時、相手のフィールド上のモンスターカードを一枚選び破壊する事が出来る。

《壊虎の人工巨人ドライ》

効果モンスター

星4 / 土属性 / 岩石族 / 攻 800 / 守 1200

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードが墓地から特殊召喚された時、相手のフィールド上の魔

法・罨カードを一枚選び破壊する事が出来る。

《壊虎の合体巨人アインツヴァイ》

融合モンスター

星5 / 土属性 / 岩石族 / 攻 2500 / 守 1200

《壊虎の人工巨人アイン》 + 《壊虎の人工巨人ツヴァイ》

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターの攻撃力分の半分のダメージを相手ライフに与える。

このカードが破壊された時、互いのLPに500のダメージを与える。

《壊虎の合体巨人ツヴァイドライ》

融合モンスター

星5 / 土属性 / 岩石族 / 攻 1000 / 守 2500

《壊虎の人工巨人ツヴァイ》 + 《壊虎の人工巨人ドライ》

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードは相手プレイヤーに直接攻撃する事が出来る。  
このカードが破壊された時、互いのLPに500のダメージを与える。

《壊虎の合体巨人ドライアイン》

融合モンスター

星6 / 土属性 / 岩石族 / 攻 2000 / 守 700

《壊虎の人工巨人アイン》 + 《壊虎の人工巨人ドライ》

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードが特殊召喚に成功した時、自分と相手のモンスターを一体選び破壊する事が出来る。

このカードが破壊された時、互いのLPに500のダメージを与える。

《壊虎の完全合体巨人グランド・ロア》

融合モンスター

星8 / 土属性 / 岩石族 / 攻 2700 / 守 1500

《壊虎の人工巨人アイン》 + 《壊虎の人工巨人ツヴァイ》 + 《壊虎の人工巨人ドライ》

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

このカードが破壊された時、互いのLPに1000のダメージを与える。

《壊虎エラルド・ブレット》

効果モンスター

星8 / 土属性 / 岩石族 / 攻 3000 / 守 2500

このカードは特殊召喚する事が出来ない。

このカードは「壊虎」と名の付くモンスターを2体リリース事ではないが通常召喚されない。

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードが召喚に成功した時、相手フィールド上のモンスターを全て破壊する。

このカードが破壊された時、互いのLPに2000のダメージを与える。

## ―魔法カード―

### 《壊虎の魔導実験場》

#### フィールド魔法

自分フィールド上に存在する「壊虎」と名の付くモンスターの攻撃力・守備力を300ポイントアップする。

このカードがフィールド上にある間、このカードを融合素材モンスター1体の代わりとして数えることができる。

### 《壊虎の咆哮》

#### 速攻魔法

このカード発動時に、自分フィールド上に表側表示で存在する

全ての「壊虎」と名の付くモンスターの攻撃力を半分にし、相手のフィールド上の魔法・罠カードを全て破壊する。

### 《壊虎の錬金術》

#### 通常魔法

自分の手札を全て墓地に送る。

その後、墓地に送った数までの星4以下の「壊虎」と名の付くモンスターカードを自分の場に特殊召喚する事が出来る。

《エリクシール・ブレス》

通常魔法

《壊虎エラルド・ブレット》が自分フィールド上に存在する時、発動する事が出来る。

相手の墓地のカードを全て除外する。このカードの効果を使用したターン、《壊虎エラルド・ブレット》が攻撃する事が出来ない。

－畏カード－

《壊虎の人工巨人召喚術》

カウンター畏

「壊虎」と名の付くモンスターが攻撃対象に選ばれた時に発動する事が出来る。

手札・デッキから「壊虎の人工巨人」と名の付いたカードをと表側守備表示で特殊召喚し、攻撃先をそのカードに変更する事が出来る。

《壊虎の秘密道具》

カウンター畏

「壊虎」を名の付くカードが表側表示で存在する時に発動する事が出来る。

相手の魔法・畏カードの効果が無効にし、自分はデッキから一枚ドロウする事が出来る。

## オリカ紹介 〈壊虎〉（後書き）

《壊虎》のコンセプトは墓地復活効果と自分を含めたバーン。そこまでチートってわけでもないし、OCGでもありそうなカードだと自分では思っています。

切り札となる《壊虎エラルド・ブレット》は召喚した時に相手のモンスターだけでも全破壊して戦闘破壊されない、更に破壊された時に両者に2000ダメージを与える強力カード。アウスエルは制限があります。シンクロやエクシーズありの今でも活躍できる融合素材をイメージして作成。

シンクロもエクシーズも好きですけど、俺の中での一番は融合召喚なんですよね。ホントこのデッキでシンクロデッキと戦いたい……

### TURN 3 悲しみの光と闇 前編(前書き)

今回戦闘はなしです。それ故に話が短く感じてしまいましたがご了承下さい、実際短いですし。

後、あるキャラの性格が漫画版に少し近くなっています。



### T U R N 3 悲しみの光と闇 前編

乾夢の就寝は早い。

夜の11時に眠り、朝の6時に起きる。夢はこの習慣サイクルを守り生活し、自身の健康管理をこなしている。「決闘者は体が資本、不十分な状態で相手に挑むなど失礼である。」が彼のモットーであり、栄養バランスにも気を使い食事も基本自分で作るその管理具合は15歳としては大した物と言えるだろう。

故に夢はたった一人の人間と自分の精霊達を除いて自分の決めたスケジュールを崩されるのを極端に嫌い、それ以外の事柄に関しては無視を決め込んでいる。

デュエルアカデミアの入学初日である今日もスケジュール通りに寮の歓迎会を終えた後、20分間の筋トレを行い、掻いた汗を風呂で流すと同時に体の疲れを癒し床につく。そして明日の朝に向けて英気を養う……筈だった。

深夜0時、夢がベッドで眠りに入っている時間に彼の部屋に侵入者が現れる。侵入者は一目では性別が見分けられず、そもそも性別が男か女かすらも分からない。両性具有と解釈した方がいいのだろう。

夢の部屋には彼の精霊である《封竜の巫女ウィンダ》があり、侵入者の存在に気が付いているようだが警戒する素振りは見せない。それどころか、侵入者の顔を見るなりやつほくと手を振り歓迎の意を示した。

侵入者はウィンダに会釈を交え、自分の用事を告げる。

『夜分に済まないね、ちょっと夢に頼みたい事があるんだけど起こして貰えないかな?』

『緊急の用事?じゃないとちょっと無理だよ。』

侵入者の方もその辺は分かっているらしく、軽く頷き答える。

『ああ、十代の事で話があるんだ。』

『分かった。ねえ夢、起きて〜お客さんだよ〜』

緊急の用事だと知りウィンダは夢を起こしにかけ出す。ウィンダが軽く夢の体を揺さぶるとあっさりと夢は起き上がり、寝ぼけ眼で侵入者を見た。

「なんだ、ユベル……また十代が何かしたのか?」

夢がそう言つと、侵入者：遊城十代の精霊の一人であるユベルは困り顔で夢に用事を告げる。

『さつき十代にオベリスクブルーの生徒からメールがあつてね。今日この時間でアンティ込みで勝負をしようという内容さ。』

「成る程……十代はそれに乗り、今決闘を始めているという訳か。」

一を聞いて十を知るといふ言葉はまさにこの事だろう、十代の性格をよく知る夢はユベルの言いたい事を即座に理解し苦悩する。ユベルも同じ気持ちのようで、苦笑いのまま会話を続ける。

『僕達は危ないと忠告したんだけどねえ……十代つたら僕達の言葉を聞いてくれないんだよ。「決闘だ決闘だ〜!!!」って、調子に乗っちゃって。』

「あの馬鹿は決闘になると周りが見えないからな……この時間だと校則違反だぞ、オシリスのあいつだと退学ものだ。」

『つまり、ユベルちゃんは夢に十代君を連れ戻してきて欲しいんだね!〜!』

話に割り入りウィンダはユベルの頼みを簡潔に答える。ユベルはウィンダの答えに肯定し、申し訳ない顔で夢に頼む姿勢を見せた。

その姿をみて夢は頭を掻き篋り、少し苛ついた声でユベルの頼みに返事を返す。

「……わかったよ、ぶん殴ってきてでも連れ戻してくるわ。ウィンダはここで待ってまた何かあったら知らせしてくれ、頼んだぞ。」

『分かった、任せといて!』

その言葉を聞くと夢は道案内をユベルに頼み、共に部屋を出る……就寝着のままです。

これは余談だが、夢達が出た少し後、ウィンダは周囲に誰もいない事を確認し誰もいない事が分かると夢がさっきまで寝ていたベッドに飛び込み、

『えへへ、やっぱりまだ夢の臭いがする』

と、恍惚に浸っていたが夢がその事を知る事はない。

「どう転んでも俺の勝ちが決まったようなものだな！アンティールにより、お前の大事なカードを貰うぜ。」

現在、フィールド上には万条目の出した《ヘルジェネラル地獄將軍・メフィスト》のみ、そして十代の手札は《ハネクリボー》一枚だけ。自分の勝利はほぼ確実、万条目はこの状況を見て確信していた。

だが十代は、自分が負けるかもしれないと言うのにこの状況でまだ笑みを浮かべている。アンティールにより自分の大切なカードが失われるかもしれないのだ。

十代はまだ勝負を諦めていない、それどころかこんな状況でもまだ決闘を楽しんでいる。万条目は十代を見て手に違和感を感じた。よ

く見ると手が小刻みに震えている。脅えている、自分はこのドロップアウトに脅えているのだと万条目は気付いてしまった。

なぜこの俺様がオシリスレッドのドロップアウトに脅えなければならぬ、次の俺のターンで勝利は確実なのに！！

それでも手の震えは治まらない。圧倒的状況下の中でも自分の勝利を確信させない男、それが遊城十代なのだ。

「決闘というのは99パーセントの知性が勝敗を決する、運が働くのはたった1パーセントに過ぎない！さあ、お前のターンだ、さっさとドロローしろっ！！」

自分は負けない、負けるがない、いや負けてはならない。万条目は誓ったのだ、自分は必ずデュエルキングになると。なのにこんな所でドロップアウト野郎に負ける？そんな事はない、自分は圧倒的に有利なのだ。だから負けるはずはない！！

だが、十代もまだ自分の勝利を諦めてはいない。万条目に向かい闘志の籠った瞳で先程の万条目の言葉に異議を返す。

「万条目、決闘って言うのは自分のデッキを信じた者が勝つんだ。

お前が99パーセントの知性に頼るんなら、俺は1パーセントの運に全てを賭ける。俺のドロローは奇跡を呼ぶぜ！！俺のターン、ドロロー！！！！」

十代がカードをドロローした瞬間、彼の顔に笑みが浮かんでいたのを万条目は見逃さなかった。間違いない、奴はこの状況をひっくり返すカードを引いたのだ。

十代が笑みを浮かべ、引いたカードを発動させるその刹那、この決闘を観戦していた天上院明日香が二人に決闘中止を勧める言葉を投げかける。足音が聞こえる、ガードマンが来るから早く決闘をやめなさいと。

万条目の側で決闘を観戦していた取り巻き達は万条目に早くここから出ましようとするも、万条目は彼等の言葉に耳を傾けない。

「決闘の邪魔をするな！！そんなに帰りたいたいならお前達だけで帰れ！！！！」

その言葉を聞いて、取り巻き達は諦めた顔でその場を去る。十代の方も同じで、明日香達が説得しても決闘をやめないようだ。

「アニキ、ガードマンに見つかったら僕達退学になっちゃいますよ〜?」

「彼の言う通りよ。入学早々この学園をやめる事になってもいいの?」

「でもよ、決闘者たるもの決闘は途中で止めちゃ駄目だろ?それに俺、このターンで勝ちそうだし。」

満面の笑みで笑う十代に、明日香はもう何を言っても無駄だとこの場を去ろうとする。だがもう時既に遅し、足音の主はこちらに迫っており、逃げ出す事が出来なくなってしまった。

「(はあ…入学初日からついてないわね。)」

自分はオベリスクブルーだ、流石に退学にはならないが処分は喰ら

うだろう。そう覚悟して足音の主が現れるのを待つ。だが、足音の主は明日香が思った人物ではなく……

「じゅうううううううだあああああいいいいいい！！！！  
！！！！メェ、こんな夜中で何やってんだああああああああ！！！！！！！！！！」

我等が主人公、乾夢だった。その顔はまさに般若を思わせるような形相で顔を合わせるのも辛い、もはや顔芸の域である。着ている服がパジャマだというのもシュールな光景で当事者以外には笑いを誘う。現に今、明日香と翔は笑いを堪えるのに必死だ。

「ゆ、夢！？な、何でここに……」

しかし、その当事者である十代は夢を見た途端に顔を真っ青にし、恐る恐る夢に尋ねる。だが夢はその言葉を無視し、二人が立つデュエルフィールドへ足を運ぶ。

「おい貴様！今俺達は決闘をしている、邪魔をするな！！」

万条目が夢を睨みつけるも、夢は万条目を超える迫力で万条目を睨み返す。

「黙れ！アンティルルルなんて決闘者に恥じた闘いをして何を言う！！この勝負は無効だ無効！！！！」

「くっ……だが、しかし勝負は勝負！！最後まで……」

「くどいつ!! そんなに勝負にこだわるならまた今度にしろ!! 俺は今猛烈に眠いんだ!!!」

「何っ!? 貴様そんな理由でこの勝負を……それでも決闘者か!？」

「リアリストだ。まあ、決闘者でもあるが。とにかく帰るぞ十代、俺は早く帰って寝たい。」

「いや、でも俺は……」

「か・え・る・ぞ!!」

「は、はい……」

夢の気迫になす術もなく十代は従い決闘を中止する。そして夢に引つ張られながらデュエルフィールドを去る中、万条目は夢に向かい叫ぶ。

「貴様、よくも俺様の決闘を邪魔してくれたな。名を名乗れ!!」

「乾夢、通りすがりのライエローだ。覚えておけ。」

そういつと夢は万条目に背を向き、十代を引つ張りながらこの場を去った。

一人残された万条目は唇を噛み締めながら呟く。

「乾夢……その名、覚えておくぞ……!!」



### TURN 3 悲しみの光と闇 前編（後書き）

今回は夢VS万条目の予定です。明日には投稿できたらなと思っています。

後、本編に書くことではないのでここに書きますが、本作品のユベルは夢というイレギュラーがいたお陰で、宇宙に飛ばされていないのでヤンデレる事はありません。ヤンデレユベルが好きな方は大変申し訳ありません。

TURN 3 悲しみの光と闇 中編(前書き)

こんな小説をもし待っていてくださる方がいらっしやいましたら申し訳ありませんでした、次の日後編投下といっときながら一ヶ月かかってます。しかも中篇です、後編はまだ出来てません……頑張ります。

万条目準には双子の弟がいる。

いや、いたと言った方が正しいだろう。なぜなら彼の双子の弟、万条目駿は今もこの世にはいないからだ。

万条目駿は俗に言う天才決闘者だった。小学生ながらにして大人相手に対等に渡り合う程の実力を持ち合わせていた。

準はそんな弟が誇りだった。準も駿と同じ小学生離れたタクティクスを持ち合わせ、「万条目の天才双子決闘者」と周りから喝采を受け、駿と共にデュエルキングへの階段を共に駆け抜け続けていた。駿と共になら自分ももっともっと強くなれる、準は駿との時間が長く続く事を願っていた。だが、運命の悪戯かその時間は最悪の形で終わりを迎える事になる。

準と駿がデュエルアカデミアの中等部に入学する事が決まったある日、万条目家では2人の祝いも兼ねて家族一同で海外旅行に向かった。

飛行機は当然ビジネスクラス、本来なら優雅に海外で羽を伸ばすつもりであった。だが、その時に悲劇は起きた。

準達が乗った飛行機がエンジンの不調から突然爆発したのだ。幸い、爆発場所が空港の一步手前の海で救助は即座に行われた。だが、準と駿は爆発による重症を負い、命の危険性が高く緊急手術を行う事になった。

緊急手術が行われたが、準達の容体は今の医学では治せない程に酷く、特に駿に至っては手の施しようがなかった。

そこで、医者はせめて準だけでもと駿の体からまだ活かせる箇所を準に移植し、準だけはなんとか一命を取り留める事に成功した。

だが、生き永らえた準に待っていたのは大きな絶望だけだった。

誰よりも大切な弟が死んだ、自分は弟を守る事が出来なかった。周りは駿が死んでしまった事に悲しみ明け暮れていたが、誰もが準が生きてくれた事を喜んでいた。

しかし、彼の心の傷はそんな事では癒せない。夜な夜な彼は病室で自問自答を繰り返してきた。

何で俺が生き残った？何で駿が死なねばならなかった？あの時席がギヤクダッタラ？生きていたノハシユンノホウダッタノデハナイカ？俺のセイデシユンハシンデシマッタ。ナラオレガシユンニナレバイインダ。オレガ、シユンニ、ナレバ……

この時から万条自準の人生に曇りが差しかかった。病院を退院した後、彼は自分が使っていた光デツキを封印し、弟である駿が使っていた闇デツキを多様する事になった。

それ所か性格も傲慢になっていき、彼はひたすらに強さだけを追い求めていく修羅になっていった。

そのうち弟が使っていた闇デッキを使用する事もなくなり、彼は何時の間にか迷走していく事になる。

デュエルアカデミアの入試試験の日、彼はまさに迷走の真っ只中にいた。どうしても自分の力に限界を感じてしまう、自分の昔使っていた光デッキ、そして弟の闇デッキさえ捨てて強さを求めていったのにむしろ弱くなっていると感ずる。

そんな中彼は遊城十代の決闘を見てしまう。デュエルアカデミア実技担任のクロノス教諭を倒すタクティクスを持ち主。スランプ状態の彼にとって彼は目の上のたんこぶとっていいだろう。

だが、万条目は十代のタクティクスよりも別の事で彼にジェラシーを感じていた。

「（何故あの男はあんなにも決闘を楽しんでいるのだ？俺はもう決闘を楽しいとさえ…あいつらの姿さえ見えなくなっていったというのに……）」

万条目には昔、カードの精霊が見えるという能力があった。しかし、彼が迷走していくに連れて次第にその能力は薄れていき、果てには声さえ聞こえなくなっていた。

もう万条目には決闘を楽しむ事が出来ない。故に楽しみながら決闘をしていた十代の事が憎くて憎くて溜まらなくなったのだ。

「（遊城十代……デュエルアカデミアに辿り付いた時、貴様に絶望

と言つ決闘を見せてやる……！！）」

こうして彼は、入学初日に彼にアンティ勝負を挑む事を決め、行動に移したのであった。

太陽が眩しく昇り鳥達がざわめき出すデュエルアカデミアの森の中で、万条目は墓標の前に立っていた。

どうやらこの墓標は万条目の手作りらしく、彼の指には地面を埋める際に付いた土が付いている。

万条目は普段誰にも見せない優しい表情で、墓標に向かって一人呟く。

「ここなら、デュエルアカデミアの生徒も気付く事はないだろう。俺はもうお前達を使う事が出来ない、いや、許されないんだ……。勝手なのは重々承知している。だが、お前達にはここで俺の活躍を見守って欲しい。駿の分まで、頼む。

……もう、ここに来る事はないだろうな。さらばだ……。」

万条目は墓標から背を向き、森を去ろうとした。だが、その時万条目の前に人が現れその足を止める。

「貴様……この場所に何の用だ……!!」

万条目はその男…夢を睨みつけるが、夢は悪びれもせず万条目に話しかける。

「ドローの練習をしに森まで来たんだが、練習の途中、そこにいる精霊達の声が聞こえてな。急いで向かったらお前がいた、という訳さ。」

夢は万条目の後ろにある墓標を指差した。夢には聞こえていた、万条目の精霊達の悲痛な叫びが。偶然近くにいたからなのだろう、聞こえたからには見過ごすわけにはいかない。夢は一直線に声の場所まで向かったのだ。

「お前の精霊達が言ってたぜ、『誰か準を助けて。私達と一緒に遊んでくれた、優しくかったあの頃の準を取り戻して……』ってな。万条目、お前精霊が見えてるんだろ。いや、正確に言えば見えていたんだろう?」

夢は精霊達の言葉を万条目に告げた。だが、今の万条目には夢の言葉は届いてなく、空回りな発言を夢にぶつける。

「貴様っ！俺を馬鹿にするのもいい加減にしろ！！決闘だ…俺と決闘しろ!!」

「……いいだろう。お前の腑抜けた根性、修正してくれる!!」

「決闘っ!!!」

ターン1

先攻 万条目 LP4000 手札5枚 フィールド、なし。 魔

法・罨ゾーン、なし。

後攻 夢 LP4000 手札5枚 フィールド、なし。 魔法・

罨ゾーン、なし。

「俺様のターン、ドロォ!!!《地獄の裁判》を攻撃表示で召喚し、カードを2枚伏せターンエンドだ!!!」

《地獄の裁判》(すごい昔のカード)

通常モンスター

星4/闇属性/悪魔族/攻1300/守 900

敵を棺桶に閉じこめ、地獄の使いがグサリと判決を下す。

ターン2

後攻 夢 LP4000 手札5枚 フィールド、なし。 魔法・

罨ゾーン、なし。

先攻 万条目 LP4000 手札3枚 フィールド、《地獄の裁

判》。 魔法・罨ゾーン、伏せ2枚。

「俺のターン、ドロォ!!!すまん、サンボルト。俺は《封竜の雷獣サ



ンボルト》を召喚。そのままバトルフェイズに入る、サンボルトで《地獄の裁判》に攻撃。」

《封竜の雷獣サンボルト》 攻撃力1500 《地獄の裁判》 攻撃力1300

「馬鹿が！！畏カード《聖なるバリア ミラーフォース》発動！お前のモンスターを破壊する！！！」

サンボルトの攻撃を聖なるバリアがはじき返した。それによりサンボルトはダメージを受け破壊される。

「ハハハ！！これがオベリスクブルーの力だ！！！！ライエローといえども、技能の差は歴然としているんだよ！！！」

畏の発動栄光に高笑いし夢を見下す万条目。だが、夢はそんな万条目を冷やかな目で見つめる。

「完全な間違いとは言わんが、1500一体に聖バリとは駄手じゃないのか？メインフェイズ2、俺は手札を一枚捨てて《THEトリッキー》を特殊召喚。カードを2枚伏せターンエンド。」

ターン3

先攻 万条目 LP4000 手札3枚 フィールド、《地獄の裁判》。魔法・畏ゾーン、伏せ1枚。

後攻 夢 LP4000 手札1枚 フィールド、《THEトリッキー》。魔法・畏ゾーン、伏せ2枚。

「お、俺の戦法が駄手だと！？ラーイエローの分際で…！俺のターン、ドロー！フフ、俺の手が駄手でない事を証明してくれる。俺は《地獄の裁判》を生贄に、《地獄詩人ヘルポエマー》を召喚だ！！」

《地獄詩人ヘルポエマー》

効果モンスター

星5 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻2000 / 守1400

このカードが戦闘によって破壊され墓地に送られた場合効果が発動する。

このカードが墓地に存在する限り、相手バトルフェイズ終了時に相手は手札からカードを1枚ランダムに捨てる。

このカードは墓地からの特殊召喚はできない。

「バトルフェイズ、《地獄詩人ヘルポエマー》で《THEトリッキー》に攻撃だ！！」

《地獄詩人ヘルポエマー》 攻撃力2000 《THEトリッキー

》 攻撃力2000

《地獄詩人ヘルポエマー》が怪音波を放ちながら《THEトリッキー》に襲い掛かるも、《THEトリッキー》も魔法で応戦。同攻撃力の二体は相打ちとなり共に破壊される。

「上級モンスターをわざわざ自爆させてくれるとは、それがオベリ

スクブルーの力なのかい？」

夢はあからさまに挑発の態度を見せる。が、万条目は夢の言葉に高笑い返した。

「馬鹿が！戦闘によって破壊されたこの瞬間、《地獄詩人ヘルポエマー》の効果を発動する！！」

万条目が効果の宣言をすると、破壊された《地獄詩人ヘルポエマー》の影が形となり夢に襲い掛かる。

「《地獄詩人ヘルポエマー》の効果発動！！このカードが戦闘によって破壊され墓地に送られた時、このカードが墓地に存在する限り、相手バトルフェイズ終了時に相手は手札からカードを1枚ランダムに捨てる。次のターンからお前はバトルフェイズに手札を一枚減らさなきゃならなかった！」

これで次のターンから夢はバトルフェイズを終了する度に手札を一枚捨てなくてはならなくなった。黒い影に蝕まれつつも夢は余裕を持って挑発を続ける。

「くっ……これは地味に辛いな。だが、その所為で俺の場にお前のモンスターはない。無理に攻撃する必要はなかったんじゃないか？」

「だがそれはお前の場にもいえるだろう？俺はカードを一枚伏せてターン……」

万条目がターンエンドを終了するその間際、夢は自分を伏せていたカードを出す。

「エンド前に、伏せておいた《サイクロン》を発動！！お前のこのターンに伏せたカードを破壊する！！」

「くっ…《次元幽閉》が…！！」

万条目の伏せた《次元幽閉》が破壊される。だが、夢はまだこれで終わらせる気はないようだ。

「更に罨カード、《リビングデットの呼び声》を発動！！俺は墓地より《封竜の雷獣サンボルト》を特殊召喚する。一応聞いておくが、何か出すものはあるか？」

「何もない…しかし、《THEトリッキー》を蘇らせると思えばさつき殺した低級モンスターを蘇らせるとはな。お前本当にライイローの生徒か？」

「残念な事にライイローだよ。まあ、俺の意図を見抜けないオベリスクよりはタクティクスは高いつもりだがね。」

「貴様…！！…まあいい、所詮貴様は口だけの奴だ。次の俺のターンで本当の実力と言う物を見せ付けてやるよ。ターンエンド。」

ターン4

後攻 夢 LP4000 手札1枚 フィールド、《封竜の雷獣サンボルト》。魔法・罨ゾーン、《リビングデットの呼び声》。  
先攻 万条目 LP4000 手札2枚 フィールド、なし。魔法・罨ゾーン、伏せ1枚。魔

「俺のターン、ドロ。俺は手札より《封竜の恵み》を発動。このカードは自分フィールド上に「封竜」と名の付くカードがあれば、デッキからカードを2枚ドロする。効果によって2枚ドロ！」

### 《封竜の恵み》

通常魔法

自分フィールド上に「封竜」と名の付くモンスターが存在する時に発動する事が出来る。

デッキからカードを2枚ドロする。

「俺は手札から《封竜の巫女ウインダ》を攻撃表示で召喚。効果により、デッキから《封竜ブロケード》を手札に加える。バトルフェイズ、サンボルトで直接攻撃!!！」

万条目    LP 4000    2500

「ぐっ…!!！」

「続けて、ウインダで直接攻撃!!！」

万条目    LP    2500    1500

「ぐああああっ!!!!！」

サンボルトが自身の爪で万条目の体を引き裂き、ウィンダの魔法が万条目を襲う。一気に2500の大ダメージを受け苦しむが、その顔には笑みを浮かべる。

「だが、このバトルフェイズ終了時お前は手札を一枚捨てる!!」  
その言葉に、夢は不適な笑みを浮かべ返す。

「残念だな、《封竜の雷獣サンボルト》の効果により、相手は墓地のカードを発動する事が出来ない。」

「何だとっ!?!」

《封竜の雷獣サンボルト》

効果モンスター

星4 / 風属性 / 雷族 / 攻1500 / 守1200

このカードの召喚時、相手の魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。

このカードが表側攻撃表示で自分フィールド上に存在する限り、相手は手札・墓地のカードの効果を使用する事が出来ない。

「これでお前の戦法は完全に意味を無くした。自分の精霊との繋がりを捨てて得たその力、案外大したことなかったな。」

「っ……………」

夢の説教挑発に万条目には返す言葉がない。そんな万条目を見て、更に夢の言葉が続く。

「俺はお前がどんな経緯で精霊達との繋がりを捨てたのかは知らない。何かお前にとって許しがたい事が起きたんだろつ。じゃなきゃ、大事な仲間を捨てることなんざ出来ないさ。」

「……………」

「でもな、俺は今のお前を見て言える事が一つだけある。お前は……卑怯者だ。」

夢の言葉に万条目は目を見開く。プライドの高い彼にとって「卑怯者」とは最も忌み嫌う言葉だ。彼にとって許し難い言葉だったのだろつ、万条目は夢を睨みつけ叫ぶ。

「俺が卑怯者……だと！？そんな馬鹿な事があるかっ！！」

「いや、お前は卑怯者だね。お前は何か信じたくないものから逃げているように見える。その為にお前は自分のデッキを封印して、精霊達の所為にしたんだ。りっぱな卑怯者だよ。」

「違っつ！俺はデュエルキングになる為にあいつ等を見捨てたんだ！！強くなる為だ……俺は、俺は卑怯者じゃないっ！！」

「強くなった結果がこれか！？まるで話にならん、それでもオベリスクブルーの生徒なのか？自分の戦い方を出来ない時点でお前ももう終わってるんだよ……！！」

「俺の……戦い方だと……？」

夢の言葉に戸惑う万条目、夢は続けて言い放つ。

「明らかにお前の戦法はミスが多すぎる、戦い方に無理があるんだよ。だからお前は十代にも、俺にも負ける事になるんだ。これ以上は何を言っても無駄のようだな、俺はカードを一枚伏せてターンエンド。さあ、お前のターンだ万条目！！」



**T U R N 3 悲しみの光と闇 後編(前書き)**

お待たせしました、後編開始です。

### TURN 3 悲しみの光と闇 後編

ターン5

先攻 万条目 LP1500 手札2枚 フィールド、なし。 魔

法・罨ゾーン、伏せ1枚。

後攻 夢 LP4000 手札2枚 フィールド、《封竜の巫女ウ

インダ》、《封竜の雷獣サンボルト》。 魔法・罨ゾーン、《リビ

ングデットの呼び声》伏せ1枚。

『……準、私を3枚いれようよ！！私が3枚あれば、どんな時でも準を助ける力になれるよ！！』

『おいおい何を言っている、こんな奴を3枚いれるより私を多く入れたほうがいいんじゃないのか？』

『お前を増やすくらいなら私を多く入れたほうが準の為。準、君はどうしたい？』

「うん……皆の意見も聞き入れたいけど、僕はこのままがいい。だって、これなら皆と一緒に決闘してるって実感が沸くんだもん！」

『そうか……私達と共に戦う、それが準の戦い方だもんね。』

「うん！皆と一緒になら、僕はどこまでだって強くなれるよ！！」

「…っ！？俺の戦い方…捨てたはずだ、そんなもの……」

万条目は戸惑う、自分自身の歩んだ道は本当に正しかったのかと。

夢の説教の所為で、万条目は中学生時代の記憶がフラッシュバックし蘇る。

精霊達と一緒にデッキ作りをして、笑いあって、共に歩んできた日々。

楽しかった。悔しいこともあったけど、精霊達と一緒にならどんな困難も怖くはなかった。

俺はその仲間との繋がりを捨て、強さを求めて修羅の道を歩んだ筈なのに何故弱くなった？何故俺は繋がりを捨てた？強くなる為ではなかったのか？

分からない…駿の為、死んだ弟が果たせなかった夢を果たす為に修羅の道を選んだはずなのに。弱くなってしまったのは、駿に合わせる顔がない…！！

俺は一体…何で生きてるんだ？駿じゃなくてどうして俺が？

駿だったら、俺のような失態は犯さなかった。駿だったら、俺より



「そいてお互いに2枚ドロー!!!そして俺は、伏せていた《リビングデットの呼び声》を発動する!!!対象は…先程捨てた《時の魔術師》だ!!!」

### 《時の魔術師》

効果モンスター

星2 / 光属性 / 魔法使い族 / 攻 500 / 守 400

1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に発動する事ができる。  
コイントスを1回行い、裏表を当てる。

当たった場合、相手フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

ハズレの場合、自分フィールド上に存在するモンスターを全て破壊し、

自分は破壊したモンスターの攻撃力を合計した数値の半分のダメージを受ける。

「そしてさらに手札から《地獄の暴走召喚》を発動!!!俺は《時の魔術師》を選択。デッキから特殊召喚する!!!」

### 《地獄の暴走召喚》

速攻魔法

相手フィールド上に表側表示でモンスターが存在し、自分フィールド上に

攻撃力1500以下のモンスター1体が特殊召喚に成功した時に発動する事ができる。

その特殊召喚したモンスターと同名モンスターを自分の手札・デッキ・墓地から

全て攻撃表示で特殊召喚する。

相手は相手自身のフィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択し、

そのモンスターと同名モンスターを相手自身の手札・デッキ・墓地から全て特殊召喚する

「俺はウインダを選択、2体をデッキから特殊召喚し効果で《封竜の開鳥ガルド》と《幼き封竜プチリュウ》を手札に加える。」

今現在、万条目の場には《時の魔術師》が3体。夢の場には《封竜の巫女ウインダ》が3体に《封竜の雷獣サンボルト》がいる。

数だけを考えれば夢を有利にしただけなのだが、万条目は通常召喚権を使っていない。

「（普通に考えれば《時の魔術師》をリリースして上級を出す筈。ピンチになるが俺の手札にはブロケードがいるし、伏せカードは《封竜の絆》。俺のモンスター達が破壊される事はない。

俺が有利なのは確か、だが今のアイツは何かがおかしい。「俺が駿になればいい」、「万条目準なんか消えてしまえばいい」とか言っていたが…）」

図らずとも、夢の不安は的中する事になる。万条目が次に宣言した行動。それは…

「《時の魔術師》の効果発動!!!コイントスを1回行い、裏表を当

てる！俺は表を選択するぜ！！！」

「なんだと……ここでギャンブルに出るといつのか！？」

万条目が選択した行動、それは賭け。成功すれば相手の場が全滅し、失敗すれば自分の場が全滅し場の合計攻撃力の半分を受けるというシンプルな賭け。

手段としては失敗でもあるし成功でもある。万条目の手札には《絶対服従魔人》が存在し、アドバンス召喚をすればこの場は凌げるだろう。

だが彼はここで賭けに出た。より確実な勝利にする為に、安定を捨てたのだ。

万条目はポケットからコインを取り出し、それを勢いよく上に弾く。弾かれたコインは真上に跳ね上がり回転し万条目の手の甲に落下する。

万条目はコインを別の手で落ちない用に覆い、コインの振動が止まるのを感じると覆った手を引き戻す。

手の甲に見えるコインは……「表」を指していた。

#### タイムマジック

「コインとスは成功した！！効果によりお前の場のモンスターを全て破壊！！！」【時の魔法】！！！」

時の魔術師の針が止まり、夢の場のモンスター達が突如にしてその姿を消す。【時の魔法】により時空間を消されてしまったのだ。

「そして俺は時の魔術師2体をリリースして《絶対服従魔人》を召

喚！！そのままダイレクトアタックだ！！！！」

「なにっ！？（くそっ、これだと《封竜の絆》が使えない…！！）」

### 《絶対服従魔人》

効果モンスター

星10 / 炎属性 / 悪魔族 / 攻3500 / 守3000

自分フィールド上にこのカードだけしかなく、

手札が0枚でなければこのカードは攻撃できない。

このカードが破壊した効果モンスターの効果は無効化される。

### 《封竜の絆》

カウンター罫

「封竜」と名の付くモンスターが攻撃対象に選ばれた時に発動する事が出来る。

その攻撃を無効化し、手札から「封竜」と名の付いたカードを一枚墓地に送り二枚ドロウする。

夢 LP4000 500

「ぐあああああ…！！！！！！」

《絶対服従魔人》の攻撃が夢に押し掛かる。ソリッドヴィジョン故



に痛みはないとはいえ攻撃力3500の直接攻撃、その反動は相当な物だろう。

「そうだ…やっぱり駿は強いんだ…俺なんかよりもずっと、ずっと…！」

そう自分に言い聞かせ万条目は墮ちるように眼を濁らせる。万条目準はもういない、今ここにいるのは万条目準という名の「壊れた人形」だけ…

ターン6

後攻 夢 LP500 手札4枚 フィールド、なし。 魔法・罠ゾーン、伏せ一枚。

万条目 LP1500 手札0枚 フィールド、《絶対服従魔人》  
魔法・罠ゾーン、なし。

「万条目…やれば出来るじゃねえか…まさか、前のターンでギャンブルに出るとは思わなかったぜ。」

夢は素直に万条目を褒め称える、自分が予測できなかった行動。それによって、夢は今窮地に立たされているのだ。

だが、夢の言葉に万条目にも答ええない。マリオネットのように、そこにただ立っているだけ。

「…万条目、お前さつき訳わかんねえこと言ってたな。「俺が駿になればいい」、「万条目準なんか消えてしまえばいい」とかさ。

もしかしてお前、その駿って奴が死んだからこうなってるのか？だとしたら…とんだ笑いモンだな。」

その言葉に万条目は動かなくなつた体をピクリと動かせる。だが夢の方を決して向こうとしない、構わず夢は話を続ける。

「人間ってというのは、結局「自分」以外にはなれねえんだ。どんだけ「自分」を変えようと努力しても、そこにある根っこを取り除くことなんざ出来ない。

お前が「駿」とやらになようとしてもお前は「万条目準」。お前の言う「駿」とやらにはなれないんだよ。」

「駿」にはなれない、そのキーワードが万条目に響く。そしてそれは、少しずつ壊れていった「万条目準」を再構築し、叫ぶ。

「……なら、俺はどうすればいい。俺の所為で駿は死んだ。俺がおめおめと生きて言い訳がないんだ。俺はどうやって駿に償えばいいんだよ！……！」

その叫びは悲しく、森全体を木霊する。その叫びに夢は口を開きこつ答えた。

「しるか。」

夢のあつけない一言に、万条目は先程までの悲壮感を無くしたただ呆然と固まる。

だが夢はそんな事は気にせずさっきの言葉に追言する。

「いや、そんなもん俺が聞きたいくらいだわ。死人に償うとかそんなもんやった事ねえし。」

まあいえる事はあれか？死んだ奴よりも今側に居る奴に謝れ。お前の隣にいる…相棒達によ。」

「相棒…：今、俺の隣にいるのか？」

「ああ、お前が狂った時には凄く心配してたぞ。『準を苛めないで！！』って怒ってたくらいだ。」

準は自分の周りを探すように首を動かす、だが何も見えないようだ。

「俺には見えない…：本当に、本当にあいつらは俺の隣にいるのか…？」

「俺は嘘は付かん、見えないのはお前がまだ心を閉ざしてるからだろうな。だから…：このターンで勝負に勝って、お前の眼を覚まさせてやるよ。」

「何だと！？状況的に完全有利とはいえないが、俺の場のモンスターは攻撃力3500だぞ！？一ターンで勝てるわけがない。」

《絶対服従魔人》はその効果故に使い勝手が悪い。次のターンで罠を引いたらまだ夢にチャンスはある、が万条目を倒すには攻撃力3500の壁を乗り越えなければならない。

《地砕き》を使えばあっさり倒せるが、そう都合よく除去カードなんて手札にはこない。ドロで来たのはただの罠、チートドロなんてもの、この男には存在しない。

だが、すでに夢の手札には逆転の方程式が完成している。夢は不適に笑い、万条目に宣言する。

「なら見せてやるよ…：俺とこいつ等の、「絆」って奴をな。」

これが俺の逆転の一手、昨日の十代が最後にドロウしたカード……  
《死者蘇生》だ。」

そのカードは先日の決闘で十代が逆転の一手として引いたカード。  
十代は自身のマイフェイバリットカード《E・HERO フレイム・  
ウイングマン》を蘇生させて逆転をする筈だった。そして夢もまた  
自身のフェイバリットを蘇生させる。

「俺は《封竜の巫女ウインダ》を蘇生させる！蘇れ、ウインダ！！」  
「ウインダちゃん復活です、って初めての戦闘シーンでの台詞が過  
労死扱い！？」（過労死達よ）マスターが私を酷使してきます……（  
集まれ）」って、スレに書いたらどんな反応出るかな？」

「色々な所から同意のレスが来ると思うぞ。こんなどうでもいい会  
話は置いといてウインダの効果発動だ。デッキから《封竜の希望カ  
ムイ》を手札に加えるぞ。」

「私との会話がどうでもいい！？これが倦怠期なのね……私は、私は  
こんなに夢に尽くしてるといふのに……シクシク……あ、カムイ君手  
札に来て頂戴。」

「変な小芝居で手札に呼ばれたよ！？僕の初登場台無しだこんちく  
しよおおおおおおお！！！」

復活して場に戻るウインダ。そしてその効果により夢は《封竜の希  
望カムイ》を手札に加える。単純な作業だ、だが万条目はかすかな  
違和感を感じた。先程まで自分が見ていたソリッドヴィジョンとは  
違つと。

見た目はさほど変化はないが変にリアル感がある、というより普通に喋っているのだ。そんな昨日、決闘盤には搭載されていない。その光景を見て万条目にデジャビュが浮かぶ、中学の時の自分…ただ自身の精霊と心を通わせていたときの自分が、今の夢と重なって見えた。

(そういえば、あいつもあんな感じで俺に構ってくれていたな………  
…ソリッドヴィジョンを通したら、また見えるようになるのか?)

ふと、万条目はデツキを埋めた場所を眺める。それと同時に、いつの間にか笑っている自分に気付く。

駿が死んで以来笑った事などなかった。悲しみに明けくれ、ひたすらに強さを追い求めた自分が今は笑っている。笑顔を見せている。

万条目準はあの男の姿を見て昔の様に…自身の精霊達と共に決闘する自分を想像していたのだ。

(成る程：俺はまだ、未練を捨て切れていなかったんだな。

俺はただ駿が死んだ事に逃げていただけ。駿が死んだ事実を受け入れられずにあいつ等に八つ当たりをしていたんだ…

これじゃああいつ等の姿が見えないのも道理だな。それに奴の言った通り、俺は「駿」にはなれない。俺は…俺はどうしようもなく、「万条目準」なのだから。)

万条目の体から力が抜けていく。今まで自分が作ってきた闇が、何処か遠くへ飛び去るように離れていくのを感じた。

それと同時に胸が熱くなっていく、夢はどんな手を使って自分を倒してくれるのかと。期待している、夢の出す次の一手を。

故に万条目はあえて口に出す、期待しているからこそその挑発の言葉を。

「手札に加えたのはチビ坊主一体だけか！そんなものでこの俺を倒せると思うなよ！！」

「まだ俺のターンは終わっちゃいない！！ウインダが場に居る事によつて、手札より、《封竜の開鳥ガルド》と《幼き封竜プチリュウ》を特殊召喚する！！」

『プチイ！！』

『ガルガル、ガルツ！！』

特殊効果によつて場に出るガルドとプチリュウ。そして更に夢の行動は続く。

「そして俺はプチリュウをリリースし『封竜ブロケード』を召喚！  
プチリュウ、お前の成長した姿をここに現せっ！！」

『プウウウウチイイイイイイツ！！！！』

プチリュウの咆哮と共に紅い光がプチリュウをその身に包み輝く。紅い光が止むとそこには幼き風貌を残した幼竜の姿はなく、封印の谷を守りし竜《封竜ブロケード》が威風堂々とした面持ちで場に顕現されていた。

「ふっ…来たか、お前の切り札が。だが、ブロケードの攻撃力は3000。5000程攻撃力が足りんぞ！」

あざけ笑う万条目。だが万条目の言葉は正しく、今ここで切り札を出したところで万条目の《絶対服従魔人》の攻撃力は3500。これでは攻撃が届かず決着を付けられない。

それは夢も承知の事、だから夢はウィンダの効果で『彼』の呼んだのだ。この勝負に勝つ為に。

「俺は手札から《ガスタの希望カムイ》をブロケードに装備する。」

『ブロケードさん……助太刀します!!』

「何!? モンスターがモンスターに装備だと!？」

《ガスタの希望カムイ》

星2 / 風属性 / サイキック族 / 攻 2100 / 守 0

このカードを手札から墓地に送る事で、デッキから《封竜の谷》を一枚選び手札に喰らえる事が出来る。

このカードは封竜と名の付くモンスターに装備カードとして装備する事が出来る。

この時装備モンスターの攻撃力は2100ポイントアップし戦闘ダメージを与えることが出来ない。

カムイの体が光り、ブロケードと同化する。そしてブロケードの攻撃力は5100にアップ、《絶対服従魔人》の攻撃力を超えた。

「バトルだ、ブロケードで《絶対服従魔人》に攻撃! ヴァニッシング・フィールド!!」

《封竜ブロケード》 攻撃力5100 《絶対服従魔人》 攻撃力3500

ブロケードの咆哮が《絶対服従魔人》を吹き飛ばす。壁となっていた魔人はいなくなり、万条目にはもう己を防ぐ手段がない。

「カムイを装備したモンスターは戦闘ダメージを与えられない。だが、お前のライフは1500。俺の残りのモンスターで与えられる戦闘ダメージは1500。これで、チェックメイトだ。」

「フツ、ラーイエローに負けるか……いいだろう、止めを刺せ。」

「……分かった。ウインダで攻撃、そしてガルドでとどm……」

ガルドが攻撃し、決闘に終止符が打たれる。その瞬間だった。

『止めはガルドちゃんだと思った？残念、ウインダちゃんでした！というわけで、キック！』

一度攻撃を行ったウインダがガルドを止め、万条目に向かって全力でキックを放った……万条目の股間目掛けて。

「あぐつ！？おおおおお……！！な、何故……痛みが……！？」

なんとウインダの攻撃は肉体的に万条目の体にヒットしていた。万条目の体は崩れ落ち、無残にも股間を押さえ蹲る。

それでも万条目は声を振り絞り、金的を放った張本人であるウインダに投げかける。当のウインダは悪びれもせず、あどけない顔で答えた。

『それはね、私が実体化したからだよ。自分の精霊を見捨てるような輩には月に変わっておしおきよ！ってカーム姉さんが言ってたし。』



『私はそんな事言った覚えありませんよ…』と、夢の側にカームが現れ、眼を細めてウインダを見つめるが、ウインダは『こまかい事はいいんだよ！』と堂々とした顔でサムスアップを取り、カームと夢を更に呆れさせた。

「な…成るほど…まったく、理解…できないが、お…俺が…あいつらをみす、見捨てたのは事実…！こ、この痛みなど…あいつ等に、比べたら…痛くもかゆっ！？…痒くも、ない……」

格好いい台詞を吐いてはいるが、股間の痛みの所為で聞き取り辛い。

「フフ、そうでしょそうでしょ？これで…貴方の罪は許されました。

」

ウインダが言った瞬間、万条目の体に重みが押し掛かる。それと同時に背中にやわらかい感触が万条目に伝わり、わんわんと泣き叫ぶ少女の声が聞こえる。

『準、大丈夫！？というか準の息子さんまだ生きてる！？もし準がさっきので不能になったとしても嫁に貰ってあげるから安心して！子供は出来ないだろうけど、準が死ぬ時まで甲斐甲斐しく看病するからね！あ、そうそう。結婚式は海の上かい？それとも海の下？私はどっちでもいいなあ…って、海の下だと結婚式出来ないよね！じゃあ海の上でしようか…！』

「……安心しろ、かなり痛かったが俺の金田一少年は無事だ。というか何故急に話が入れ替わる！？しかも式場は海限定だと！？」

『え、雲の上がよかった？』

「その発想がすでにおかしい！！普通は陸地でやるものだろうが……  
………久し振りだな、ライラ。」

ライラと呼ばれた少女はニコツと笑い、万条目の言葉に頷いた。

『うん、こうして話すのは久し振りだよ。でも、私達はずっと準の側にいたんだよ？』

「そうか……やっぱり俺は、気付けなかったんだな。」

『そんな顔しないで、今はもう見れるようになったんでしょ？ならいいじゃない、私達は気にしてないから。』

「だが、それでは俺の気が……！！」

ライラの指が万条目の口を止める。

『私達がいっていうからそれでいいの。それよりもさ、準は駿と一緒にチャンピオンを目指すんでしょ？だったら私達と駿のデッキを一つにしちゃえばいいんだよ。』

「しかし、あれは駿が一生懸命考えて作ったデッキだ…それを崩すのは………」

『あゝもうじれったいなあ！！だったらさ、ダルク君達に聞けばいいんだよ。あのデッキはまだ部屋にあるんでしょ？』

「あ、ああ………」

『よし、そうと決まれば出発しんこ〜！ほら、準。早く行こ〜よ。』

「……まだ金的の痛みが残っているんだがな。」

万条目は震えた足で歩き出す。金的の痛みはまだ残っているが、彼は清しい顔で笑っていた。

『夢、どうしてすぐに離れちゃったの？あんなドラマのようなシーンなんてめったにないのにな〜…』

不服を現すように頬を膨らませるウィンダ、どうやら出刃亀をしたかったらしい。

「こういう場面は二人っきりにさせるのが筋つてもんだ。万条目の他の精霊達だって我慢してライラと一緒に出なかつたんだぞ？空気を読め、阿呆。」

『う、夢に阿呆って言われた。もう私、お嫁にいけない…!!』

「なら一生喪女として過ごせ。喪女版は、いつでもお前を待っているぞ？」

『ノーセンキュウで……あのさ、夢。億兆円、だっけ？さっきの人

に夢はイラツと来てつい決闘をしてしまったんだよね？戦い方がそ  
うだった。』

「万条目だ、どうやってたらそう間違える……まあ確かに、少しは苛  
付いたからかもな。挑発なんて、俺らしくもない。」

『……夢、やつぱりまだ、エリアちゃんを宇宙に旅立たせた事、悔  
やんでるんだね。』

ウィンダの言葉に、夢は足を止める。

「……そう、かもな。だから俺は、万条目に苛つきを感じたんだ。  
仲間を宇宙に放り出した俺がぁんだけ説教するなんて……俺には資格  
すらない癖に。」

『そんな事ないよ！！エリアちゃんは自分から宇宙に行きたいって  
言ったもん、夢が全部悪いんじゃない……』

「いや、止めなかった俺が悪い……宇宙から帰ってこれる保障なん  
てないのに、エリアを旅立たせた俺がな。」

『……エリアちゃん、今どうしてるんだらうね。』

「さあな。でも……エリアには、今も元気で居て欲しい。」

夢は空を見上げる。曇りなく青い空、その先にはある無限に広がる  
宇宙を、夢は悲しげな表情で眺めていた。

### TURN 3 悲しみの光と闇 後編(後書き)

今日の最強カード、《ガスタの希望カムイ》

星2/風属性/サイキック族/攻 2100/守0

このカードを手札から墓地に送る事で、デッキから《封竜の谷》を一枚選び手札に喰らえることができる。

このカードは封竜と名の付くモンスターに装備カードとして装備する事が出来る。

この時装備モンスターの攻撃力は2100ポイントアップし戦闘ダメージを与えることが出来ない。

色々便利なサポートカード。フィールド魔法サーチできるわ、攻撃力2100アップとかチートだわ、まあ戦闘ダメージ与えられんが。

夢の精霊の中では比較的まともな方、ウインダのボケにいちいちツッコミを入れるその姿は、まさに(お笑い界の)希望。ツッコミって大事だよな。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8696y/>

---

遊戯王GX 封竜の夢

2012年1月13日01時46分発行